

仙台市文化財調査報告書第408集

南小泉遺跡

第62次発掘調査報告書

2012年9月

仙台市教育委員会

仙台市文化財調査報告書第408集

南 小 泉 遺 跡

第62次発掘調査報告書

2012年9月

仙台市教育委員会

序 文

仙台市の文化財保護行政に対しまして、日ごろからご理解とご協力を賜り感謝申し上げます。市内には、旧石器時代から近世に至るまで数多くの埋蔵文化財が残っています。当教育委員会といたしましては、市民の皆様からのご理解・ご協力のもと、これらの文化財を保存・活用し、次世代へ継承していけるように努めているところです。

本報告書は仙台市立遠見塚小学校の校舎改築工事に伴い、平成21・22年度に実施しました南小泉遺跡第62次発掘調査の成果をまとめたものです。

遠見塚小学校は、仙台市内最大の前方後円墳である史跡遠見塚古墳に隣接しています。今回の調査の結果では、古墳時代中期を中心とした遺構・遺物が発見されました。

本報告書が学術研究はもとより、市民の皆様にも広く活用され、地域の歴史と文化財に関心を抱く契機になれば幸いです。

最後になりましたが、本報告書は平成23年度に刊行する予定でしたが、昨年3月11日に発生した東日本大震災のため刊行が遅延され、今年度刊行することができました。現在仙台市は「ともに、前へ仙台 ～3.11からの再生～」を掲げて復興計画を進めているところです。そうした中、本報告書刊行にあたり、多くの方々のご協力、ご助言をいただきましたことを深く感謝申し上げる次第です。

平成24年9月

仙台市教育委員会
教育長 青沼 一民

例 言

1. 本書は仙台市立遠見塚小学校校舎の改築工事に伴い平成21・22年度に実施した、南小泉遺跡第62次発掘調査の成果についてまとめたものである。
2. 本書の作成業務は仙台市教育委員会が株式会社イビソクに委託して行った。
3. 報告書の作成にあたっては、仙台市教育委員会生涯学習部文化財課調査指導係 庄子裕美・篠原信彦の監理の下、株式会社イビソクが行った。
4. 原稿等の執筆は下記のとおり分担し、これに庄子と篠原が補足した。
庄子 裕美 第1章 第1節 服部 英世 第1章 第2節～第7章
清水 輔 第5・6章（出土遺物の記述について服部と分担）
5. 発掘調査および報告書作成に際し、次の方々からご指導・ご助言をいただいた（敬称略・順不同）。
辻 秀人 松本 秀明
6. 本調査の実施に際し、仙台市立遠見塚小学校および仙台市教育委員会総務企画部学校施設課の協力を得ている。
7. 発掘調査や報告書作成時の図面・写真・出土遺物などの全ての資料や記録は、仙台市教育委員会が保管している。

凡 例

1. 第1図は国土地理院発行の5万分の1地形図「仙台」（平成14年）を、第2図は仙台市作成の都市計画基本図（平成10年）をそれぞれ修正して使用した。
2. 本書で使用した土色の記載は、農林水産省農林水産技術会議事務局・財団法人日本色彩研究所監修「新版標準土色帖」（2006年版）に基づき使用した。
3. 本書中の座標値は、日本測地系平面直角座標第X系を基準とし、標高値はT.P.（東京湾平均海面）を用いた。なお、座標値と海拔高度は、平成23年3月11日の東日本大震災以前のものを使用している。
4. 本書に掲載した遺構図の縮尺は、遺構配置図が1/250、個別遺構平面図・断面図が1/60、1/100、1/200、基本層序が1/60として掲載した。
5. 本書に掲載した遺物実測図の縮尺は、土器類を1/3、石器剥片は2/3、石製品は1/3（石製模造品は1/2）、金属製品は1/2を原則とし掲載した。
6. 遺構については以下の略号を使用し、平成21年度と平成22年度を通じて、遺構種別毎に連番とした。
SA：柱穴 SB：掘立柱建物跡 SD：溝跡 SI：堅穴住居跡 SK：土坑 P：ピット SX：性格不明遺構
7. 土層名については基本層をローマ数字で表記し、遺構内堆積層をアラビア数字で表記し、細分層についてはその後にアルファベットの小文字を付し区別した。
8. 遺構図で使用したスクリーントーンの凡例は、その都度挿入図中に示した。
9. 出土遺物の登録には次の遺物記号を使用し、種別ごとに通し番号を付した。
A：縄文土器 B：弥生土器 C：土師器（非ロクロ） D：土師器（ロクロ調整・赤焼土器） E：須恵器
K：石器・石製品 N：金属製品 P：土製品
10. 遺物観察表内の法量で（ ）で示した数値は推定復元値もしくは残存値を示し、-は計測不能を示した。
11. 土器・石器の実測図中スクリーントーンを貼付したものは次の状態を示している。



目 次

序文

例言・凡例

第1章 調査に至る経緯と調査要項	1
1. 調査に至る経緯	1
2. 調査要項	1
第2章 地理的環境と歴史的環境	2
1. 地理的環境	2
2. 歴史的環境	2
第3章 調査の方法と経過	3
1. 調査の方法	3
2. 調査の経過	4
第4章 基本層序	5
第5章 平成21年度の調査	6
1. 調査の概要	6
2. V層上面検出遺構と出土遺物	6
(1) 竪穴住居跡	6
(2) 土坑	20
(3) 溝跡	22
(4) 性格不明遺構	26
(5) 遺構外出土遺物	27
3. 小結	28
第6章 平成22年度の調査	28
1. 調査の概要	28
2. IVc層上面検出遺構と出土遺物	28
(1) 掘立柱建物跡・柱穴列	28
(2) 土坑	32
(3) 溝跡	34
3. V層上面検出遺構と出土遺物	35
(1) 土坑	35
(2) 溝跡	37
(3) 性格不明遺構	43
(4) 遺構外出土遺物	44
4. 小結	45
第7章 総括	45

参考文献

写真図版

報告書抄録

挿図目次

第1図	周辺の遺跡	2	第23図	SD11溝跡出土遺物	26
第2図	調査区位置図	4	第24図	SX2性格不明遺構	27
第3図	基本層序・柱状模式図	5	第25図	遺構外出土遺物	27
第4図	V層上面検出遺構配置図（平成21年度調査区）	7・8	第26図	Ⅳe層上面検出遺構配置図（平成22年度調査区）	29
第5図	SI1竪穴住居跡	9	第27図	SB1・2獨立柱建物跡	30
第6図	SI1竪穴住居跡出土遺物	9	第28図	SA1～5柱穴列	31
第7図	SI2竪穴住居跡	10	第29図	上坑（平成22年度Ⅳe層上面）	32
第8図	SI2竪穴住居跡出土遺物	11	第30図	土坑（平成22年度Ⅳe層上面）出土遺物	34
第9図	SI3竪穴住居跡	12	第31図	SD20溝跡	35
第10図	SI4竪穴住居跡	13	第32図	SD20溝跡出土遺物	35
第11図	SI4竪穴住居跡出土遺物	14	第33図	V層上面検出遺構配置図（平成22年度調査区）	36
第12図	SI5竪穴住居跡	15	第34図	上坑（平成22年度V層上面）	37
第13図	SI5竪穴住居跡出土遺物	16	第35図	SD23溝跡	38
第14図	SI6竪穴住居跡	17	第36図	SD23溝跡出土遺物	39
第15図	SI6竪穴住居跡出土遺物	17	第37図	SD22・25・26溝跡	41
第16図	SI7竪穴住居跡	18	第38図	SD22溝跡出土遺物	42
第17図	SI7竪穴住居跡・SD13溝跡出土遺物	19	第39図	SD25溝跡出土遺物	43
第18図	土坑（平成21年度V層上面）	21	第40図	SD26溝跡出土遺物	43
第19図	土坑（平成21年度V層上面）出土遺物	22	第41図	SX3性格不明遺構	44
第20図	SD10溝跡	23	第42図	遺構外出土遺物	44
第21図	SD10溝跡出土遺物	24	第43図	出土した古墳時代の土師器	47・48
第22図	SD11溝跡	25			

図版目次

図版1	平成21年度検出遺構（1）	51	図版6	竪穴住居跡出土遺物	56
図版2	平成21年度検出遺構（2）	52	図版7	竪穴住居跡・土坑・溝跡出土遺物	57
図版3	平成21年度検出遺構（3）		図版8	溝跡・土坑・その他出土遺物	58
	平成22年度検出遺構Ⅳe層上面（1）	53	図版9	溝跡出土遺物	59
図版4	平成22年度検出遺構Ⅳe層上面（2）	54	図版10	溝跡・その他出土遺物	60
図版5	平成22年度検出遺構V層上面	55			

第1章 調査に至る経緯と調査要項

1. 調査に至る経緯

南小泉遺跡第62次調査は、南小泉遺跡内で計画された仙台市立遠見塚小学校校舎改築計画に伴う埋蔵文化財の事前調査である。

遠見塚小学校は南小泉遺跡内にあり、国史跡遠見塚古墳が東側に隣接している。遠見塚小学校の南側では昭和63年度（第17次）と平成8年度（第30次）に調査を行っており、古墳時代中期の住居跡などが見つかっている。

遠見塚小学校では、耐震化を図るため、老朽化した校舎等の改築工事が計画された。周辺の遺跡の調査状況などから、計画地内においても、古墳時代中期を中心とした遺構、遺物が残存する可能性が高いと予測された。仙台市教育委員会は、学校施設課より、平成21年6月3日付け、教総施第543号で提出された「埋蔵文化財の発掘通知の進達について」（平成21年6月26日付け、文第604号により宮城県教育委員会からの回答）に基づき、校舎改築工事範囲において、平成21年度校舎部分、平成22年度に屋内運動場部分について、本調査を実施することになった。

2. 調査要項

遺跡名	南小泉遺跡（宮城県遺跡登録番号 01021 仙台市登録番号C-102）
所在地	宮城県仙台市若林区遠見塚一丁目22番地1号
調査主体	仙台市教育委員会
調査原因	仙台市遠見塚小学校校舎の改築工事に伴う発掘調査
調査対象面積	2,285㎡

平成21年度調査体制

調査担当	仙台市教育委員会生涯学習部文化財課調査係	主査	荒井 格	文化財教諭	熊谷敏哉
調査組織	株式会社 島田組	主任調査員	村尾政人	調査員	松田重治
調査期間	平成21年10月6日～平成22年1月8日				
調査面積	440㎡				

平成22年度調査体制

調査担当	仙台市教育委員会生涯学習部文化財課調査指導係	主事	鈴木 隆	主事	庄子裕美
調査組織	株式会社 島田組	主任調査員	村尾政人	調査員	岸本卓己
調査期間	平成22年5月19日～平成22年8月6日				
調査面積	537㎡				

平成24年度調査報告書作成刊行体制

調査担当	仙台市教育委員会生涯学習部文化財課調査指導係	主事	庄子裕美	専門員	籠原信彦
調査組織	株式会社 イビソク	調査員	服部英世	調査補助員	清水 輔
整理期間	平成24年5月9日～平成24年9月14日				

第2章 地理的環境と歴史的環境

1. 地理的環境

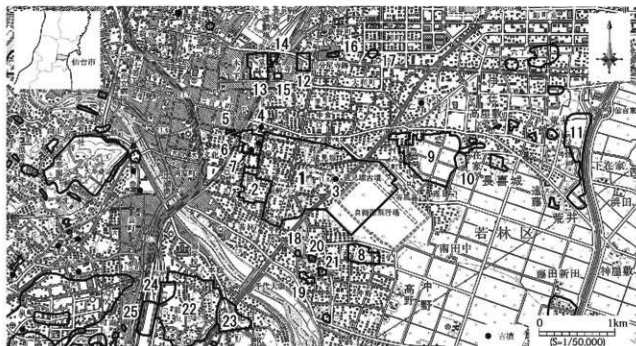
南小泉遺跡は仙台市の東部に位置する。若林区の南小泉、遠見塚、古城、霞ノ目の各地区を含む東西約2km、南北1kmを範囲とし、約135haを有する市内でも広大な面積の遺跡である。

仙台市周辺の地形は西から東にかけて山地、丘陵地、台地、平地部分に分けられる。南小泉遺跡の所在する仙台市東部沖積平野は、北は宮城県宮城郡七ヶ浜町から南は亶理郡山元町にかけて三日月形に広がる低地で、「仙台平野」とよばれている。仙台市域ではこの平野は、地理的条件などから、広瀬川以北は霞ノ目低地、広瀬川と名取川の合流点付近では川間の低地を郡山低地、名取川以南は名取低地の3つに区分されている。南小泉遺跡は、霞ノ目低地にある沖積平野の自然堤防上に立地し、遺跡内の標高は7～14mである。

2. 歴史的環境

南小泉遺跡は、縄文時代から近世までの複合遺跡である。昭和14年から行われた霞ノ目飛行場拡張工事の際に、弥生時代から古墳時代にかけての多くの遺構や遺物が発見されたことをきっかけに、広く認識されるようになった。現在までに61次におよぶ発掘調査が行われ、東北地方における古墳時代中期の土師器の標識遺跡となっている。

縄文時代では、晩期の遺物包含層が確認されており、大洞A式の縄文土器、剥片石器、礫石器などが出土している。



No.	遺跡名	類別	年代	No.	遺跡名	類別	年代
1	南小泉遺跡	集落跡・居敷跡	縄文～近世	14	国分寺東遺跡	集落跡	平安・中世
2	若林城跡	防堀・集落跡・城跡跡	古墳・平安・中世・近世	15	薬師堂東遺跡	集落跡・墓	奈良・平安・近世
3	遠見塚古墳	前方後円墳	古墳	16	志波遺跡	汲水池	奈良・平安
4	法華塚古墳	円墳	古墳	17	砂屋遺跡	城跡跡	中世
5	保命院前遺跡	集落跡	古代～近世	18	藤野1遺跡	汲水池	古墳・古代
6	関元遺跡	集落跡・居敷跡・包含地	縄文・古墳・平安～近世	19	藤野2遺跡	汲水池	古墳・古代
7	藤塚古墳	円墳	古墳	20	神橋遺跡	汲水池	古代
8	神野城跡	城跡跡	中世	21	中層内遺跡	汲水池	弥生・古墳・古代
9	仙台東部集落跡	集落跡	奈良・平安	22	藤山遺跡	汲水池・寺田跡・包含地	縄文～奈良
10	中宮東部遺跡	墓・水田跡	弥生・古墳・平安～近世	23	志波城跡	城跡・集落跡・水田跡	縄文～近世
11	若林遺跡	古墳跡	弥生～平安	24	西台遺跡	官衙関連・集落跡・居敷	縄文～中世・奈良～中世
12	鉢取岡分館寺跡	寺跡跡	奈良・平安	25	長町家東遺跡	官衙関連・集落跡・水田跡・居敷	縄文～奈良・奈良～中世
13	藤原岡分館寺跡	寺跡跡	奈良・平安				

第1図 周辺の遺跡

弥生時代の遺構は上器棺墓が発見されたにとどまるが、遺物は弥生時代前期～後期の盃、甕、高坏などの土器のほか、石砲丁、石斧、石鏃などの石器類が多く出土しており、東北を代表する弥生時代の遺跡となっている。

南小泉遺跡の東端から約1km東方にある中在家南遺跡では、弥生時代中期の上器墓や土器棺墓が発見され、旧河道からは、弥生時代中期から中世にいたる各時期の農具などの多様な木製品や建築材が出土している。中在家南遺跡の1.5km東方にある杵形遺跡では弥生時代中期中葉の津波堆積物の砂層と砂に覆われて廃絶した水出跡が検出され、両遺跡の周辺には居住域などが形成されていたと考えられている。

古墳時代には、南小泉遺跡周辺や範囲内に、遠見塚古墳や法領塚古墳、猶塚古墳をはじめ、いくつかの古墳が築かれる。なかでも遠見塚古墳は、前期の前方後円墳で全長が110mあり、国指定史跡となっている。

南小泉遺跡では今回の調査区に近い第30次調査区をはじめ数箇所ですべて古墳時代中期から後期の堅穴住居跡などからなる集落跡が確認されている。しかし7世紀の後半期になると、広瀬川の南側に多賀城以前の陸奥国府である郡山遺跡Ⅱ期官衙・付属寺院が造営されることで、集落域の中心は広瀬川の南側に移ると考えられている（仙台市教育委員会1998）。

奈良時代になると南小泉遺跡の北側に陸奥国分寺や国分尼寺が造営され、奈良時代末から平安時代になると、南小泉遺跡でも堅穴住居跡や掘立柱建物跡などが増加し、9世紀代を中心とする集落が営まれている。

鎌倉・室町時代では、土塁を伴う14世紀中期～15世紀前期の城館跡や、12世紀後半～13世紀初頭の屋敷跡とこの屋敷跡を埋めて造った区画溝を伴う13～16世紀の屋敷跡が確認された。また、周辺には今泉城跡、沖野城跡、長喜城跡などの沖積地に立地している平城がある。

江戸時代では、遺跡の南西部に隣接して、伊達政宗の晩年の居城である若林城が築造され、南小泉遺跡の西半部にあたる地域は若林城下町として発展していった。

第3章 調査の方法と経過

1. 調査の方法

【野外調査作業】 調査地は東西方向に長い長方形である。調査区は旧校舎の基礎工事による掘削によって大きく分断されていることから、東側からA～F地区と呼称した。グリッド名は、日本測地系の座標基準による5m単位の方眼割付けをして、北から南へアルファベット（A・B・C・D…）、西から東へアラビア数字（1・2・3・4…）で表記した。

平成21年度の調査区は、北西隅が7Gグリッド、南西隅が21Rグリッドにあたり、計79箇所にあぶ。平成22年度の調査区は、北東隅が10Dグリッド、南西隅が1Jグリッドにあたり、計58箇所にあぶ。これらのグリッド名を用いて検出遺構、出土遺物の位置関係の管理を行った。

発掘調査にあたっては、まず重機を用いて遺構確認面の0.2m上まで表土を掘り下げた。その後、人力にて遺構確認面まで掘り下げて、平成21年度はV層上面、平成22年度はIVc層とV層の上面で、遺構検出作業を行った。

検出した遺構については、掘削の各段階にあわせて平面・断面などの図化を行った。写真撮影は35mm一眼レフカメラと一眼レフデジタルカメラを使用した。全景写真はスカイマスターを用いて、各遺構面での撮影を行った。

【整理作業】 出土遺物の整理は、野外調査と併行して洗浄作業を行った。これが乾燥したのちに、遺物には、遺跡記号、調査次数、遺構名、出土年月日を注記した。接合・復元後には、遺物の種類ごとに遺物略号を付した登録番号を付けて登録した。登録遺物は、形態と出土遺構や、残存率に応じて選別した。

登録遺物の中から選別したものについて実測図を作成した。遺物のトレースとレイアウトはAdobe Illustrator CS4を使用した。遺物の写真撮影は35mm一眼レフカメラ、一眼レフデジタルカメラを使用し、モノクロフィルムとデジタルデータ（JPEG形式）で保存し使用した。

遺構図は屋外調査で作成したDXF形式の図面データを基にして、報告書図版に必要な図面の校正・編集を行った。図面編集は測量計算CADシステム（BLUETREND XA 福井コンピュータ株式会社）を使用した。遺構の図版は上記のデータをベクタードローイングソフトデータ形式であるAI形式に変換し作成した。

2. 調査の経過

発掘調査は平成21・22年度に、整理報告書作成刊行は平成24年度に行った。

平成21年度（A地区～D地区、E区の一部）

事務所やフェンスの設置などの準備を、平成21年10月26日から開始した。翌27日に調査区を設定したのち、平成21年10月29日から表土掘削をA地区から開始し、随時西に向かって掘り広げた。11月2日から遺構検出を開始し表土掘削の進捗に合わせて、西へ進めていった。なお、包含層の掘削はA区南側に残存していた部分について11月5日から開始し、残存状態に合わせて断続的に行った。11月6日から遺構調査を開始し、調査を終了した地区ごとに写真撮影、埋戻しを行い、平成22年1月8日に野外調査を一旦中断した。3月12日から3月23日にかけてE区の北端部について表土掘削から遺構検出までを行い、当年度の調査を終了した。なお、平成21年12月16日には遠見塚小学校の5・6年生を対象とした説明会を開催した。

出土遺物の整理は、平成22年1月6日から遺物の洗浄と補強材処理を行い、3月23日に調査を終えた。

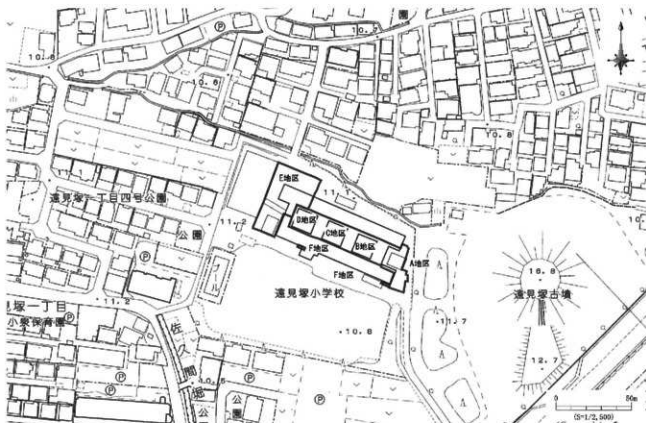
平成22年度（E地区～F地区）

事務所やフェンスの設置などの準備を、平成22年5月17日から開始し、5月21日から表土掘削を再開した。5月27日にIV層上面の遺構検出に着手し、6月25日に全景写真を撮影した。7月1日より下層（V層）遺構の調査に着手し、7月20日に全景写真を撮影したのち、7月22日まで追加調査を行った。7月30日まで埋戻しを行い、8月5日に野外調査を終了した。なお、平成22年7月7日には遠見塚小学校郷土クラブの体験発掘、7月9日には6年生を対象とした見学会を開催した。

出土遺物の整理は、平成22年7月23日から遺物の洗浄と補強材処理を行い、8月6日に調査を終えた。

平成24年度（整理報告書作成刊行）

平成24年5月10日から出土遺物の接合作業を開始した。接合が終了したのち、登録遺物を選定し、復元・補強を開始した。遺物実測図の作成を開始し、作図を終えたものからトレースや拓本、写真撮影を行った。並行して遺構図面の編集を行い、遺物図と併せてレイアウト、原稿執筆、編集を行った。



第2図 調査区位置図

第4章 基本層序

基本層序については、遠見塚小学校校舎解体に伴う調査などで確認されたI～V層を基本とした。平成21年度の調査においては、A地区南部の東壁土層断面を基準として層序を把握し、平成22年度の調査においては、E区の西壁と北壁全域の土層を基準とした。

土層は表土の擾乱・盛土と下位の各層をI～V層までを大別したのちに、更に細分した層位にはアルファベットの枝番号を付与した。

盛土： 旧遠見塚小学校校舎解体及び校舎建設時に造成された昭和期の盛土・整地層である。

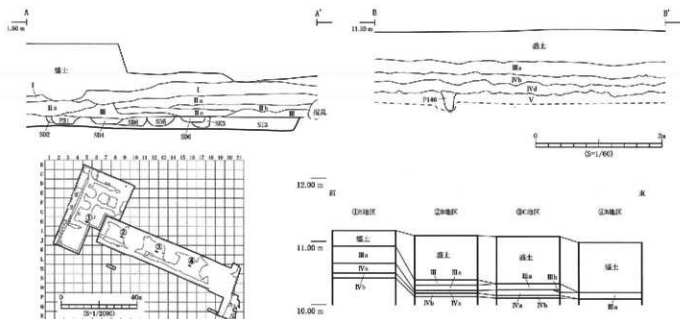
I層： 厚さ約20cmのぶい黄褐色の砂質シルトで、部分的に鉄分を多く含む。昭和初期の表土で水田の耕作土と考えられる。

II層： 厚さ15～30cmの層で、土色や土性の違いから、a～dの4層に細分できる。ぶい黄褐色やぶい黄褐色のシルトである。総じて粘性はやや強く、やや締まっている。近・現代の耕作土層である。

III層： 厚さ10～25cmの層で、土色や土性の違いから、a～lの11層に細分できる。灰色、灰オリーブ色、灰褐色などのシルトで、部分的に酸化鉄を含み、総じて粘性、しまりともにややある。E区の北壁で畑作に伴う大きな畝が検出されている。

IV層： 厚さ10～20cmの層で、土色や土性の違いから、a～hの8層に細分できる。灰黄褐色や黒褐色などのシルトで、炭化物の粒子や、地山のブロック、古代から中世の遺物を包含している。E地区においてはIVe層上面で古代～中世の遺構が検出された。

V層： 土性の違いから、aとbの2層に細分できる。明黄褐色のシルト層で、層の下位は河川の氾濫による大きく波を打った状態の細砂、粗砂が堆積している。A～E地区ではV層上面で古墳時代前期の竪穴住居跡などの遺構が検出された。



第3図 基本層序・柱状模式図

第5章 平成21年度の調査

1. 調査の概要

平成21年度の調査は、A～D地区の調査を行った。調査面積は440㎡である。V層上面で遺構検出が行われ、堅穴住居跡7軒、ピット102基、土坑18基、溝13条、性格不明遺構1基が検出された。各調査区で検出した遺構は下記の通りである。

A地区

この地区は、旧校舎の基礎により大きく擾乱を受け、北東隅部と南東隅部に遺構が島状に残存していた。他の場所については下層確認のために、当地区の中央、東部、南部にトレンチを設定して掘り下げて調査を行ったが、表土面から約1.5m下まで擾乱を受けていた。これは想定される遺構検出面より約0.8m下位にあたる。また北東部は、旧校舎のボイラー室が設置されていた関係から、表土から2m下まで及んでいたため、遺構が削平されていると判断し、掘土の掘削は行わなかった。

北東隅部では堅穴住居跡1軒、ピット15基、土坑1基、南東隅部では堅穴住居跡2軒、ピット16基、土坑9基、溝9条を検出した。

B地区

旧校舎の基礎部分については大きく擾乱を受けていたが、旧校舎間の中庭部分とその北東部の一部についてのみ遺構を検出することができた。表土から約0.8m下の第V層上面で、堅穴住居跡2軒、ピット46基、土坑5基、溝1条を検出した。

C地区

旧校舎間の中庭部分と南側の一部で遺構を検出した。遺構の検出面は、表土から約0.9m下であるが、北側については耕作や溝などの影響で更に約0.4m下となった。第V層上面でピット12基、土坑3基、溝1条を検出した。

D地区

旧校舎間の中庭部分で遺構を検出した。遺構検出面は、南側では表土から約0.9m下で遺構を検出することができたが、北側についてはC地区と同様に耕作の影響で更に約0.4m下となった。第V層上面で堅穴住居跡2軒、ピット13基、溝2条、性格不明遺構1基を検出した。

2. V層上面検出遺構と出土遺物

(1) 堅穴住居跡

S11堅穴住居跡（第5・6岡、岡版1・6）

【位置・重複】A地区M20・21、N20・21グリッドに位置する。東部は調査区外に続き、西辺はSK1により失われ、南辺は擾乱により失われている。

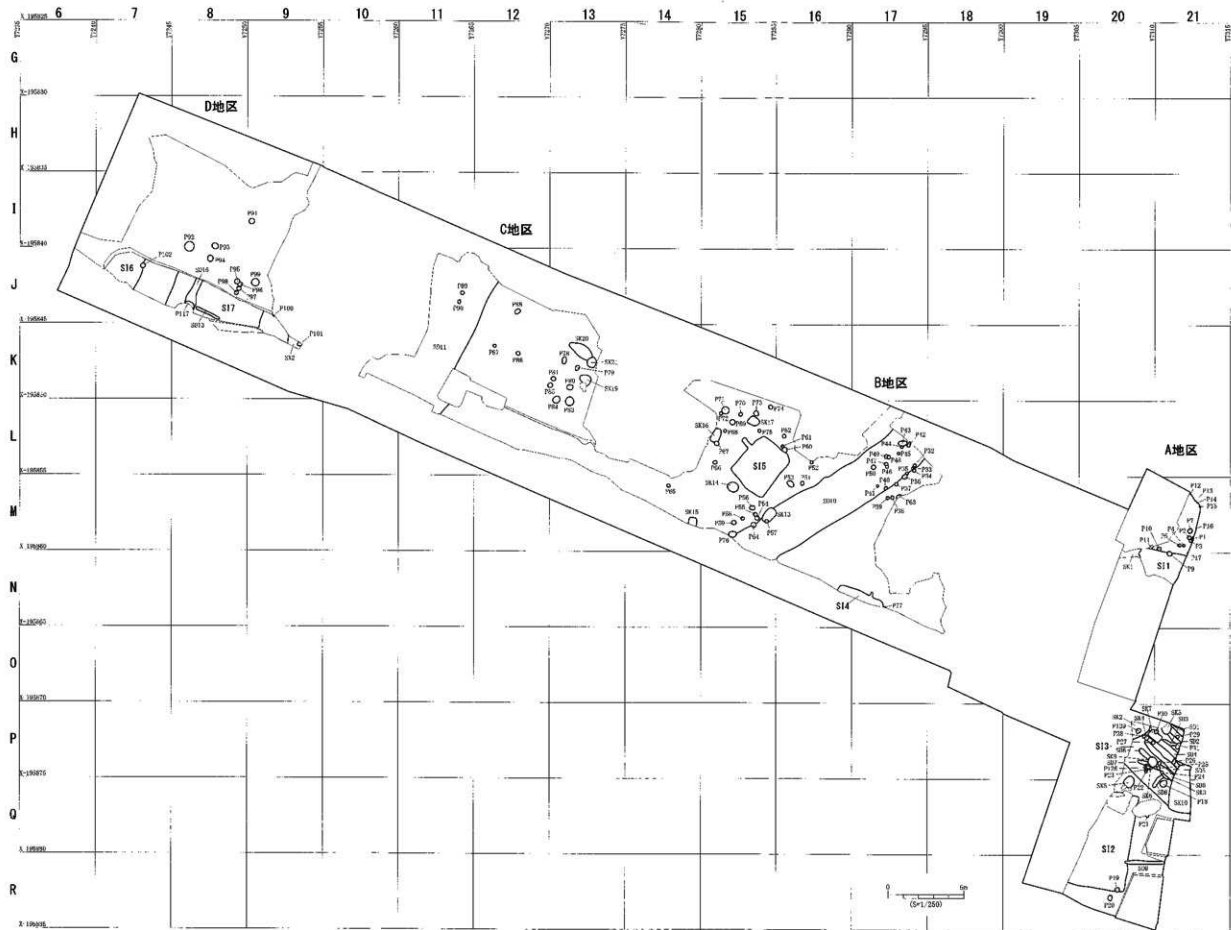
【平面形・規模・方向】平面形は、南側と西側は擾乱で失われているが、残存している北辺の一部から方形の住居と考えられる。検出された規模は東西3.0m、南北2.0mで、北辺の方位はN-78°-Wである。

【堆積土】2層に分けられる。1・2層とも住居の堆積土で、粘土質シルトの層とそれがグライ化したものである。

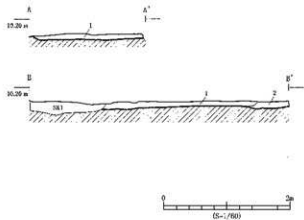
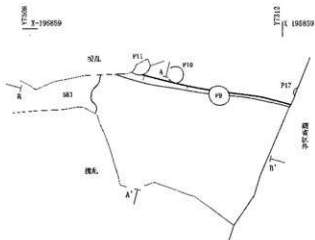
【床面・壁面】床面は平坦で、北壁面は直立気味に立ち上がり、壁高は約10cmを測る。この住居跡に伴う貼床や周溝、灰跡や貯蔵穴は確認されなかった。

【遺物出土状況】住居堆積土からは土師器小片が少量、南西部の床面からは土師器壺1がまとまった状態で出土した。

【出土遺物】第6図1は口縁部が「く」の字に外反する球形の甕で、残存する部分は1/2個体分で、底部が欠損している。全体的に薄手に製作されており、口縁部はヨコナデ、体部はヘラナデがなされており、煤が付着している。



第4図 V層上面検出遺構配置図（平成21年度調査区）



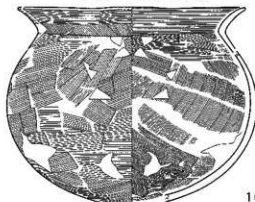
SI1竪穴住居跡 層積土分記表

層積土分記	層位	土色	土性	特徴
住居跡層積土	1	2.5G/Y3/1 暗オリーブ灰色	粘土質シルト	2がクワイ化した層。
	2	10V/YR/8 黄褐色	粘土質シルト	φ10cm以下の褐色土ブロックを少量含む。

SK1土坑 埋積土分記表

土坑	層位	土色	土性	特徴
SK1	1	5P/YR/1 薄黄褐色	シルト	粘りやわやか、しまりやわやか。

第5図 SI1竪穴住居跡



1(堆積土)

図版番号	発見番号	形状	層位	種類	形状	径長 (cm)			外周溝壁	内周溝壁	備考	写真 図説
						L径	底径	高さ				
1	C-001	SD	堆積土	土障壁	壁	L障一体	(18.0)	-	(16.1)	内縁：ヘラナデ→ヨコナデ 外縁：ヘラナデ	内縁：ヨコナデ 外縁：ヘラナデ	6-1

第6図 SI1竪穴住居跡出土遺物

SI2竪穴住居跡 (第7・8図、図版1・6)

【位置・重複】 A地区Q20、R19・20グリッドに位置する。西側と北東部は掘乱で失われている。SD9と重複しており、古い。

【平面形・規模・方向】 平面形は方形と考えられるが、西半分は掘乱されている。検出された規模は、東西3.7m、南北6.4mで、東辺の方位はN9°Eである。

【堆積土】 12層に分けられる。1～7層は住居準積土、8～12層が掘り方埋土である。

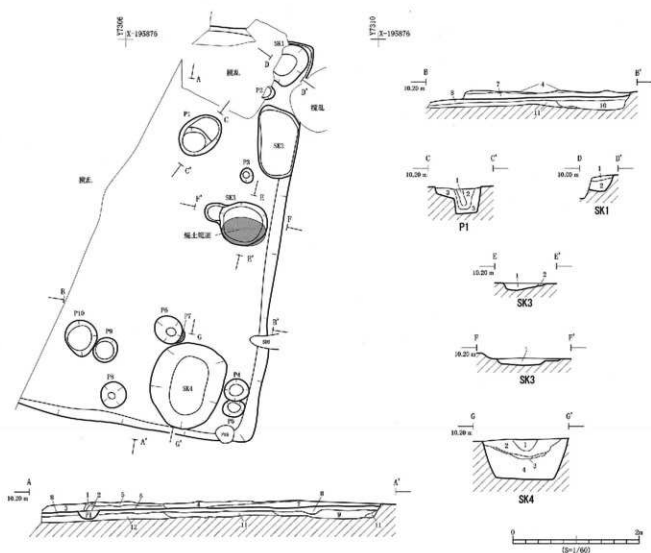
【床面・壁面】 掘り方埋土上の8層上面を床面としている。床面は平坦で、壁面は東と南の壁面はほぼ垂直に立ち上がり、壁高10～15cmを測る。周溝は確認されなかった。

【柱穴】 床面から10基のピットが検出された。なかでもP1とP6は、位置や深さから主柱穴と考えられる。P1は住居北東部に位置すると考えられ、直径約40cm、深さ約45cmである。P6は住居南東部に位置し、直径約42cm、深さ約60cmである。

【カマド】 カマドの袖や煙道は検出されなかった。しかし、東壁際中央部の床面上層で多量の焼上ブロックの混じる堆積土と、その下の床面上で壁面の焼けたSK3が検出された。SK3はカマド燃焼部の可能性がある。

【その他の施設】 SK3以外には床面上で3基の土坑が検出された。SK1は掘乱で北西側が失われており、SK2は不整形で、深さは10cmである。SK4は長軸1.38m、断面は逆台形で深さ55cmの大形の土坑である。

【掘り方】 掘り方埋土は5層に分けられる。掘り方底面の起伏は緩やかで、深さは約20cmである。



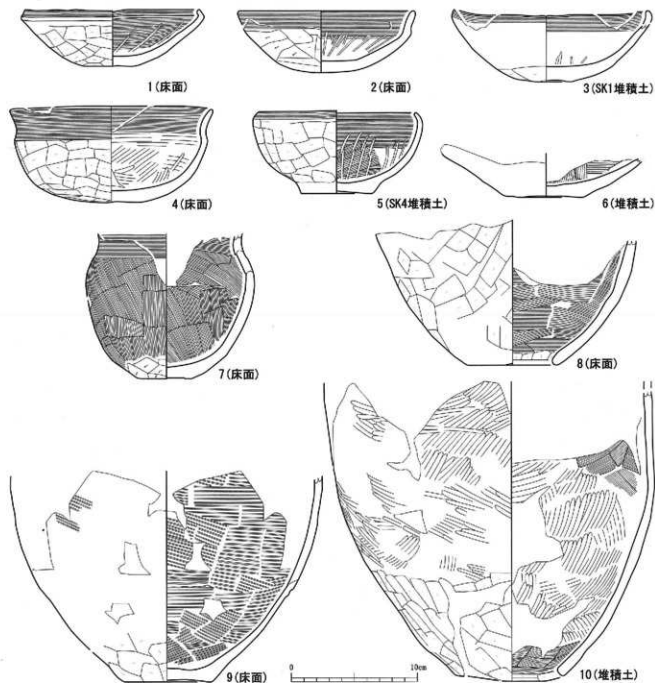
SI2単穴住居跡 堆積土住居表

遺構・位置	層位	土色	土性	特徴
自然堆積土	1	10YR4/4 褐色	粘土質シルト	φ5mm以下の1層褐色土ブロックを少量含む。しまりあり。
	2	10YR4/4 褐色	シルト質砂	黄褐色土を含む。しまりあり。
	3	10YR4/3 に近い黄褐色	シルト質砂	φ5mm以下の黄褐色土ブロックを少量含む。しまりあり。
	4	10YR4/4 褐色	シルト	φ10mm以下の黄褐色土ブロックを含む。しまりあり。
	5	10YR4/3 に近い黄褐色	シルト質砂	φ10mm以下のに近い黄褐色砂ブロックを含む。しまりあり。
	6	10YR4/4 褐色	粘土質シルト	暗褐色土を含む。粘粒あり。ややしまりあり。
	7	10YR5/6 黄褐色	シルト	黄褐色土。浅黄色粘土を含む。しまりあり。
掘り方坑土	8	10YR4/6 褐色	砂	φ10mm以下の砂ブロックを多量に。炭化物を少量含む。しまりあり。
	9	10YR5/4 に近い黄褐色	砂質シルト	φ5mm以下のに近い黄褐色砂ブロックを多量に含む。しまりあり。
	10	10YR4/3 に近い黄褐色	砂質シルト	褐色土。褐色砂を含む。しまりあり。
	11	10YR4/4 褐色	細砂	φ5mm以下の暗褐色砂を多量に含む。しまりあり。
	12	10YR4/3 に近い黄褐色	砂質シルト	褐色土を含む。しまりあり。

SI2単穴住居跡 瓦葺洋瓦土住居表

遺構・位置	層位	土色	土性	特徴
SK1	1	10YR4/4 褐色	シルト質砂	褐色土を含む。ややしまりあり。
	2	10YR4/3 に近い黄褐色	シルト質砂	褐色土を含む。
SK3	1	10YR4/6 褐色	シルト質砂	φ10mm以下の暗褐色土ブロックを少量含む。粘粒ややあり。しまりあり。
	2	7.5YR4/4 褐色	粘土質シルト	泥土。炭化物を多量に含む。粘粒ややあり。
SK4	1	10YR4/3 に近い黄褐色	粘土質シルト	暗褐色土を含む。粘粒あり。しまりあり。
	2	10YR3/4 暗褐色	シルト	φ20mm以下の黄褐色土ブロックを多量に含む。しまりあり。
	3	10YR3/1 暗褐色	粘土	φ10mm以下の黄褐色砂を多量に少量含む。粘粒あり。
	4	2.5Y7/3 浅黄色	細砂	層分的に褐色に灰色。粘粒ややあり。
P1	1	10YR6/6 黄褐色	粘土質シルト	暗褐色土を含む。粘粒ややあり。しまりあり。
	2	10YR3/4 暗褐色	粘土質シルト	φ5mm以下の暗褐色土ブロックを少量。泥土粒をごく少量含む。粘粒ややあり。しまりあり。
	3	10YR4/6 褐色	シルト質砂	褐色シルト質砂を含む。粘粒ややあり。しまりあり。

第7図 SI2単穴住居跡



図表番号	器物番号	遺構	部位	種類	器種	形状	口径	口径 (cm)		外周測定	内面測定	備考	写真図版
								口径	高さ				
1	C-004	S12	床面	土師器	杯	口縁~底	(14.0)	-	4.5	口縁:ヨコナデ 体~底:ヘラケズリ	口縁:ヨコナデ 体~底:ヘラナデ+ヘラミガキ	覆付蓋。内面磨耗	62
2	C-005	S12	床面	土師器	杯	口縁~底	(14.1)	4.6	4.9	口縁:ヨコナデ 体~底:ヘラケズリ	口縁:ヨコナデ 体~底:ヘラナデ+ヘラミガキ	外周磨耗	64
3	C-003	S12	SK1堆積土	土師器	杯	口縁~底	(15.3)	4.4	5.8	口縁:ヨコナデ 体:不明。底:ヘラケズリ	口縁:ヨコナデ。体:不明 体下縁~底:ヘラミガキ	内外面体磨耗	63
4	C-003	S12	床面	土師器	杯	口縁~底	16.0	-	7.7	口縁:ヨコナデ 体~底:ヘラケズリ	口縁:ヨコナデ 体~底:ヘラミガキ		66
5	C-009	S12	SK4堆積土	土師器	杯	口縁~底	12.4	5.6	6.6	口縁:ヨコナデ 体~底:ヘラケズリ。底:ヘラナデ	口縁:ヨコナデ 体~底:ヘラナデ+ヘラミガキ	内外面磨耗。内面 外周以外部分に磨耗	66
6	C-007	S12	堆積土	土師器	甕	体下縁~底	-	5.8	-	体~底:不明	体~底:ヘラナデ	外周磨耗	-
7	C-006	S12	床面	土師器	甕	口縁~底	-	4.4	11.8	口:ヨコナデ。体:ヘラナデ 底:ヘラケズリ	口縁:ヨコナデ 体:ヘラナデ		67
8	C-010	S12	床面	土師器	甕	体~底	(20.6)	6.2 (口径)	(11.6)	体~底:ヘラケズリ	体:ヘラナデ 底:ヘラケズリ		68
9	C-002	S12	床面	土師器	甕	体~底	-	7.0	(16.7)	体:ハケメ。底:ヘラケズリ	体~底:ハケメ	外周全体に磨耗	69
10	C-009	S12	堆積土	土師器	甕	体~底	-	6.8 (口径)	(24.5)	体上半:ヘラミガキ 体下半~底:ヘラケズリ	体:ヘラナデ+ヘラミガキ 底:ヘラケズリ		610

第8図 S12竅穴住居跡出土遺物

【遺物出土状況】西側中央と南側壁面に接する床面上から土師器の甕や坏、甌などが出土し、床面上で検出されたSK1とSK4からは第8図3・5の土師器片が出土した。

【出土遺物】出土した土師器片のうち、坏5点、甕3点、甌2点を図化した(第8図)。1~5は坏である。底部は丸底に近く、体部が直線状に開き、口縁部が短く強く内傾するもの(1)と、わずかに体部が丸みを帯びて立ち上がり口縁部が外傾するもの(2・4)がある。いずれも外面調整は口縁部がヨコナデ、体部から底部までヘラケズリ調整がされている。内面調整は口縁部がヨコナデ、体部から底部にかけてヘラナデやヘラミガキがされている。6は甕の底部である。内面底部もヘラナデが施されている。7は小型の甕である。残存している口縁部は緩やかに外反し、体部と口縁部の境は明瞭ではない。内外面ともヘラナデ調整されているが、底部付近はヘラケズリが施されている。8は無底式の甌である。8は10とは異なり、ヘラミガキがなされていない。9は甕である。体部の器壁は、中位が下位より厚く緩やかに内湾して立ち上がる。外面の体部は増減して調整は不明瞭だが、底部付近にはヘラケズリが残る。内面は全体にハケメが施されている。10は無底式の甌である。残存している体部中位が直線的に立ち上がっているため、口縁が広がるか狭まるかは不明である。体部内外面にヘラミガキが施されており、下部の内面はヘラナデとヘラケズリ、外面はヘラケズリで調整されている。

SI3竪穴住居跡(第9図、図版2)

【位置・重複】A地区P20・21、Q20・21グリッドに位置する。住居跡の西辺は複乱により失われており、重複するSD1~8、SK2~7・9・10より古い。

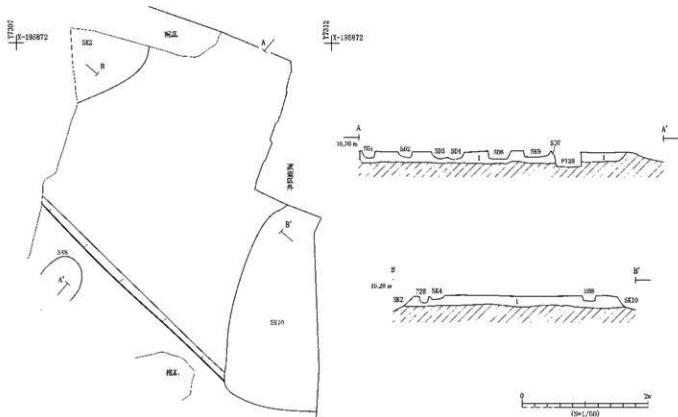
【平面形・規模・方向】平面形は、残存している南辺の一部から方形の住居と考えられる。検出された規模は、東西4.3m、南北4.4mで、南辺の方位はN-46°-Wである。

【堆積土】1層が残存していた。硬化面などは確認されなかったことから、掘り方埋土と考えられる。

【床面・壁面】床面と壁面は残存しておらず、周溝やピット、土坑、炉跡は確認されなかった。

【掘り方】底面は多少の起伏がみられるが、厚さ約15cmの埋土を確認している。

【出土遺物】掘り方埋土から土師器片が少量出土したが、図化できる資料はない。



SI3竪穴住居跡 堆積土断面図

遺物・位置	層位	土色	土性	特徴
掘り方埋土	I	10YR6/4 褐色	粘土質シルト	φ10mm以下の白い黄色砂を少量含む。粘りあり、しまりあり。

第9図 SI3竪穴住居跡

S14竪穴住居跡 (第10・11図、図版2・6)

【位置・重複】 B地区N16・17グリッドに位置する。北辺部が検出されたのみで、大部分は攪乱で失われている。

【平面形・規模・方向】 北辺と北西隅、北東隅を検出した。平面形は方形と推定され、検出された規模は、東西3.2m、南北0.6mで、北辺の方はN-68°-Wである。

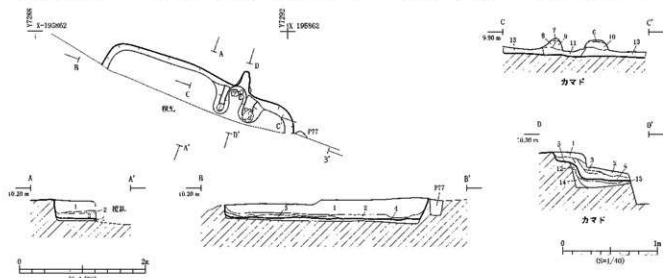
【堆積土】 4層に分けられる。1～3層が住居堆積土で、4層が貼床である。

【床面・壁面】 床の厚さは5cmほどで、多少の起伏はあるが平坦である。壁面はやや上方に開き気味に立ち上がり、壁高30cmを測る。周溝やピット、土坑は確認されなかった。

【カマド】 北辺の中央よりやや東に構築され、煙道や袖部をはじめ、焚口や支脚石、袖石も遺存していた。煙道は全長28cmと短く、上端幅は20cm、下端幅は23cmで、壁面は内傾して立ち上がっており、深さ12cmほどが遺存する。燃焼部は長さ40cm、幅24cmで、袖によって壁面の内側に作り出されている。袖部の長さは約50cmで、上端幅は8～18cm、下端幅は20～34cmである。両袖の先端部には袖石が立てられており、袖を構成する土は、焼上や炭化物が多量に混じる土で、袖の中には土師器片や丸瓦片が骨材として混入している。また、直立する燃焼部の焼けた石は、支脚の石と考えられる。

【掘り方】 底面はほぼ水平で掘り方埋土はなく、直上に貼床がある。

【遺物出土状況】 カマドの袖内からは土師器の小片や丸瓦片が、ロクロ土師器の坏や甕はカマド埋土から出土した。



S14竪穴住居跡 堆積土記述表

遺構・位置	層位	土色	土性	特徴
住居堆積土	1	10YR3/3 暗褐色	シルト質砂	磁気土を含む(量は多量)、粘性ややあり。
	2	2.5Y3/2 暗オリーブ褐色	シルト質砂	φ10mm以下の焼土、炭化物を層状に多量に含む。
	3	10YR4/1 褐色	シルト質砂	褐色土を含む、粘性ややあり。
貼床	4	10YR4/6 褐色	細砂	暗褐色土ブロックを多量に含む、粘性やや弱い。

S14竪穴住居跡 カマド埋積土記述表

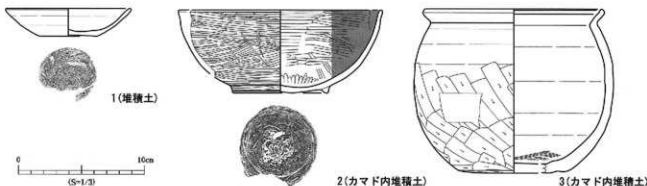
遺構・位置	層位	土色	土性	特徴
カマド内埋積土	1	10YR4/4 褐色	砂質シルト	暗褐色土を含む。φ10mm以下の褐色砂ブロックをごく少量含む。粘性ややあり、しまりあり。
	2	10YR3/3 暗褐色	砂質シルト	褐色土、および褐色土を含む。炭化物を多量に含む。φ50mm以下の焼土塊を少量含む。
	3	10YR3/1 暗褐色	砂	φ10mm以下の褐色土ブロック、炭化物を多量に含む。粘性ややあり。
	4	10YR2/2 黒褐色	粘土質シルト	φ10mm以下の暗褐色土、φ20mm以下の焼土塊を少量含む。粘性あり。
	5	10YR3/1 暗褐色	シルト	φ10mm以下の褐色砂ブロックを多量に含む。表面は焼土層(暗褐色)を形成。
カマド(竈)	6	10YR4/3 におい黄褐色	細砂	暗褐色土を含む。
	7	10YR4/4 暗褐色	シルト	φ10mm以下の褐色砂ブロックを多量に含む。表面は焼土層(暗褐色)を形成。
	8	10YR4/1 褐色	細砂	暗褐色土を含む。
	9	10YR3/4 暗褐色	粘土質シルト	褐色土を含む。φ10mm以下の焼土塊を少量、炭化物を多量に含む。粘性ややあり。
掘り方	10	10YR3/3 暗褐色	粘土質シルト	褐色土を含む。φ5mm以下の焼土塊を少量、炭化物を含む。粘性あり。
	11	10YR3/1 暗褐色	砂質シルト	褐色土を含む。
	12	10YR4/3 におい黄褐色	細砂	暗褐色土を含む。
	13	10YR4/6 褐色	シルト質砂	暗褐色土ブロックを多量に含む。粘性ややあり。
14	10YR4/6 褐色	シルト質砂		

P77ピット 埋積土記述表

遺構・位置	層位	土色	土性	特徴
P77	1	10YR4/4 褐色	シルト質砂	φ10mm以下の褐色土を互層状に含む。炭化物を少量含む。

第10図 S14竪穴住居跡

【出土遺物】出土した土師器や赤焼土器のうち、赤焼土器皿1点、ロクロ土師器杯1点、ロクロ土師器甕1点を図化した(第11図)。1は内外面ロクロ調整された赤焼土器皿で、底部に回転系切り痕が残る。2は高台付坏である。貼り付け高台をもち、底部は回転系切り痕がナゲ消されており、中央部は下方へやや膨らむ。体部の器壁は薄く、内外面とも丁寧にヘラミガキが施されて平滑に仕上げられている。3はロクロ成形のちへラケズリで外面調整されている小型の甕である。体部以下の器壁は厚く、口縁部は体部から屈曲して短く上方に開く。



図版番号	位置番号	土質	器種	種類	器種	部位	法量 (m)			外面調整	内面調整	備考	写真図版
							口径	高さ	器高				
1	D-002	SH	赤焼土器	赤焼土器	皿	口縁~底	(10.0)	(4.5)	22	口縁~体:ロクロナデ 底:回転系切り	口縁~底:ロクロナデ		6-11
2	D-003	SH	カマド内 赤焼土器	土師器	高台 付坏	口縁~底	(16.2)	(7.4)	66	口縁~体:ロクロナデヘラミガキ 底:回転系切り~回転系ナゲ 体:細粒粘り土(粘土、ナゲ)	口縁~底:ロクロナデ ヘラミガキ、藍色処理	貼付高台	6-12
3	D-007	SH	カマド内 赤焼土器	土師器	甕	口縁~底	(14.4)	-	(13.0)	口縁~体:ロクロナデ 体中~下底:ロクロナデヘラミガキ	口縁~体:ロクロナデ 底:ユビナデ		6-13

第11図 S14竪穴住居跡出土遺物

S15竪穴住居跡(第12・13図、図版2・6・7)

【位置・重複】B地区L15・16、M15・16グリッドに位置する。

【平面形・規模・方向】平面形は長方形で、規模は東西3.5m、南北2.8mを測る。住居の主軸方向は南北軸の方でN-49°-Wである。

【堆積土】カマド部分を含めて17層に分けられる。15層が貼床、16・17層が掘り方埋土である。

【床面・壁面】床は厚さ5~10cmほどの貼床で、多少の起伏はあるが平坦である。壁面はやや上方に開き気味に立ち上がり、壁高は15cmを測る。周溝は北東辺を除く各辺で確認された。

【柱穴】11基のピットが確認された。ピットの配置と重複関係からはP1、P2、P3、P5が新しい段階の主柱穴、P1、P2、P4、P6が古い段階の主柱穴と考えられる。これらは、直径44~59cmの円形で、深さは22~38cmである。P3~P6は重複しており、それぞれP3がP4を、P5がP6を壊しており、新旧関係より西側の柱が建て替えられている。

【カマド】北西辺の中央より北に位置する。煙道部と燃焼部からなる。煙道部は長さ72cm、上端幅30cmで、深さ約26cmが遺存し、底面は燃焼部へ向かって少し傾斜する。燃焼部は奥壁より約46cm南側に延びている。幅は36cmで、底部は床面から8cmほど下がる。両袖は住居内側に構築され、長さ70cmを測る。上端幅は8~14cm、下端幅は30cmほどで、床面からの高さはおおよそ14cmである。焚口や燃焼部からは甕が出土している。焚口部より南東側にはカマドから掻き出された炭が多く散乱し、さらにその延長部には被熱した甕片が多く散乱している。

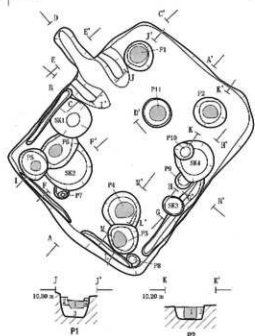
【その他の施設】南部の床面上でSK1~4の土坑4基が検出された。このうちSK1は、直径0.6m、深さ48cmのカマドに隣接する円形の土坑で、貯蔵穴と考えられる。

【掘り方】掘り方の底面は平坦で、深さは約15~20cmである。

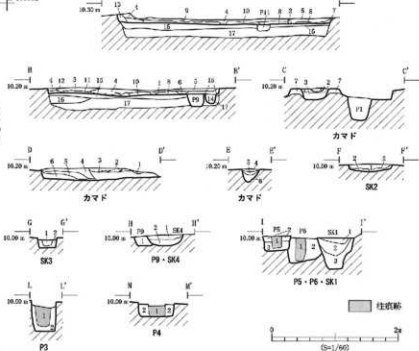
【遺物出土状況】床面から出土した遺物は、土師器杯、高杯の脚部があり、住居堆積土より石製模造品、磨・敲石が出土した。P5とSK4の上部にあたる住居堆積土上部からロクロ調整された土師器杯や甕が出土した。この住居の床面で検出されたSK1からは土師器甕、SK3・4からは土師器杯が出土した。

【出土遺物】土師器片、ロクロ土師器片、石製模造品、石器が出土した。これらのうち土師器杯を2点、高杯1点、甕1点、ロクロ土師器の杯1点、甕1点、石製模造品を2点、磨石を1点図化した(第13図)。1は坏である。底部はやや厚く、

17282
17-16882



17282
17-16882



SI5壁穴住居跡 基礎土注記表

通層・位置	層位	土色	土質	特徴
住居跡(土)	1	7BYR3/4 暗褐色	シルト質砂	φ5mm以下の黄褐色土ブロックを多数に含む。しりとりあり。
	2	10YR6/6 明黄褐色	凝砂	しりとりあり。
	3	10YR4/2 濃い黄褐色	シルト質砂	しりとりあり。
	4	7.5YR3/4 黄褐色	シルト質砂	暗褐色砂を含む。
	5	10YR2/2 濃い黄褐色	凝砂	しりとりあり。
	6	10YR4/2 暗褐色	シルト質砂	黄褐色砂を含む。
	7	10YR4/4 褐色	シルト質砂	φ5mm以下の黄褐色砂を含む。
	8	10YR4/2 濃い黄褐色	砂	φ10mm以下の黄褐色砂ブロックを多数、炭化物を含む。
	9	10YR4/2 濃い黄褐色	シルト質砂	しりとりあり。
	10	10YR4/4 褐色	シルト質砂	φ10mm以下の黄褐色砂ブロックを多数に含む。
	11	10YR5/6 黄褐色	シルト質砂	φ5mm以下の褐色砂を互層状に含む。
	12	10YR1/2 灰黄褐色	シルト質砂	炭化物を含む。粘性やあり、ややしりとりあり。
	13	10YR4/6 褐色	シルト質砂	φ10mm以下の暗褐色砂ブロックを少量含む。しりとりあり。
階層	14	10YR3/4 暗褐色	シルト質砂	しりとりあり。
床土	15	10YR5/6 黄褐色	砂	褐色土、暗褐色土を含む。しりとりあり。
掘り方堆土	16	10YR3/4 暗褐色	シルト質砂	褐色砂、黄褐色砂を含む。しりとりあり。
	17	10YR4/4 褐色	粘りシルト	暗褐色土、黄褐色砂を含む。粘性あり。しりとりあり。

SI5壁穴住居跡 カマド階層土注記表

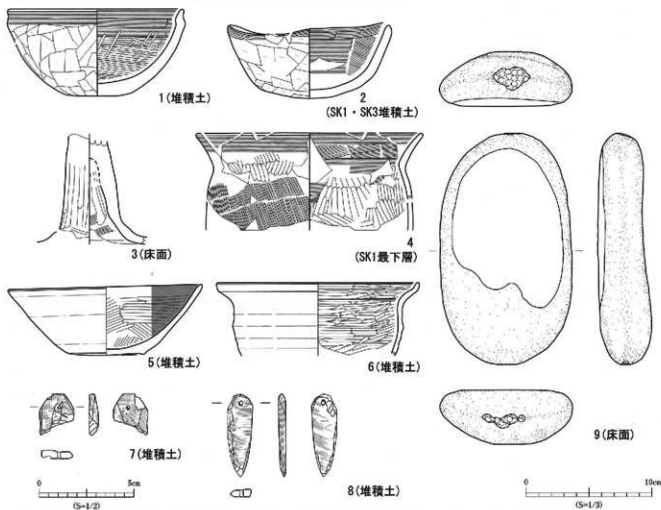
通層・位置	層位	土色	土質	特徴
住居跡(土)	1	10YR4/2 濃い黄褐色	シルト質砂	φ5mm以下の褐色土を多数に含む。しりとりあり。
	2	10YR4/4 褐色	シルト質砂	褐色土を含む。しりとりあり。
カマド(棟L)	3	10YR2/2 濃い黄褐色	シルト	褐色土を含む。炭化物を少量含む。しりとりあり。
	4	10YR5/6 黄褐色	砂	褐色土、褐色土、暗褐色土を含む。しりとりあり。
カマド(幅道)	5	10YR4/6 褐色	シルト質砂	褐色砂を含む。しりとりあり。
	6	10YR4/4 褐色	凝砂	しりとりあり。
カマド(竈)	7	10YR4/4 濃い黄褐色	砂質シルト	濃い黄褐色土を含む。粘性やあり。

SI5壁穴住居跡 掘り方堆土注記表

通層・位置	層位	土色	土質	特徴
SK1	1	10YR3/4 暗褐色	シルト質砂	φ5mm以下の黄褐色砂ブロック、炭化物を少量含む。粘性やあり。しりとりあり。
	2	10YR4/2 濃い黄褐色	砂質シルト	φ10mm以下の黄褐色砂ブロック、炭化物を含む。
SK2	1	10YR2/2 濃い黄褐色	シルト質砂	φ5mm以下の黄褐色砂ブロックを含む。粘性やあり。しりとりあり。
	2	10YR6/4 濃い黄褐色	凝砂	濃い黄褐色土を含む。
SK3	1	10YR4/4 褐色	砂質シルト	褐色砂を含む。しりとりあり。
	2	10YR4/6 褐色	シルト質砂	φ5mm以下の暗褐色土ブロックを少量含む。ややしりとりあり。
SK4	1	10YR4/4 褐色	シルト質砂	明黄褐色砂、褐色砂を含む。炭化物を少量含む。しりとりあり。
	2	10YR5/6 黄褐色	凝砂	しりとりあり。
P1	1	10YR4/6 褐色	凝砂	柱礎跡、砂に多少の土を含む。
	2	10YR4/4 褐色	凝砂	濃い黄褐色土を含む。
	3	10YR2/4 濃い黄褐色	凝砂	砂に多少の土を含む。
P2	1	10YR4/6 褐色	シルト質砂	柱礎跡、φ20mm以下の暗褐色土ブロックを少量含む。しりとりあり。
	2	10YR4/4 褐色	シルト質砂	φ5mm以下の黄褐色土ブロックを少量含む。しりとりあり。
P3	1	10YR2/2 濃い黄褐色	シルト	柱礎跡、φ20mm以下の黄褐色土ブロックを多く含む。しりとりあり。
	2	10YR5/6 黄褐色	凝砂	暗褐色土を含む。
P4	1	10YR3/4 暗褐色	シルト	柱礎跡、φ20mm以下の暗褐色土ブロックを少量含む。しりとりあり。
	2	10YR4/4 褐色	凝砂	暗褐色土を含む。φ5mm以下の黄褐色土ブロックを含む。しりとりあり。
P5	1	10YR4/6 褐色	凝砂	柱礎跡、褐色土、褐色砂を含む。しりとりあり。
	2	10YR4/6 褐色	凝砂	褐色砂を含む。粘性やあり。しりとりあり。
P6	1	10YR4/6 褐色	砂質シルト	φ10mm以下の黄褐色土を含む。粘性やあり。
	2	10YR4/6 褐色	砂質シルト	柱礎跡、φ10mm以下の暗褐色土ブロックを含む。しりとりあり。
P9	1	10YR3/4 暗褐色	シルト質砂	褐色砂を含む。粘性やあり。しりとりあり。
	2	10YR4/4 褐色	シルト質砂	黄褐色砂を含む。しりとりあり。
P11	1	10YR4/4 褐色	砂質シルト	炭化物を多数に含む。しりとりあり。

第12図 SI5壁穴住居跡

口縁端部はやや外反する。外面はヘラケズリ、内面はヘラナデ後ミガキが施されている。2は坏である。2つの土坑から出土した破片が接合した。底部は丸味を帯びているが、体部はやや直線的に開く。口縁部のヨコナデの他はヘラケズリされている。3は高坏の脚部で、裾部が屈曲して開く。外面にはヘラミガキが施されている。4は甕である。体部は丸味を帯びず、口縁部は緩やかに上方に開いている。体部はハケメとヘラミガキで調整されている。5はロクロ調整された坏である。体部から口縁部にかけては直線的に開く。磨滅しているが底部には回転糸切り痕がみられ、体部内面は黒色処理とヘラミガキ調整が施されている。6はロクロ成形された甕である。口縁部に段があり、端部は上方に立ち上がっている。残存部の内面はミガキが施されている。7、8は緑色片岩製の剣形の石製模造品である。7は台形状の上部が残り、下部が欠損している。8は完形で、箆はなく平坦だが、両面ともに刃の表現がなされている。9は磨石で、中央はやや擦り減って窪んでおり、2カ所の敲打痕が見られる。

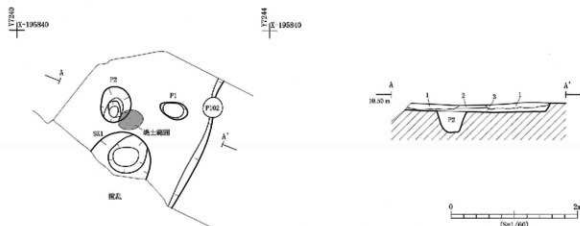


図版番号	発掘番号	遺物	層位	種類	器種	部位	径長 (cm)			外形調整	内面調整	備考	写真図版
							口縁	底径	高さ				
1	C-015	SIS	厚板土	土埴器	坏	口縁~底	(14.0)	5.0	6.9	口縁:ヨコナデ 体~底:ヘラケズリ	口縁:ヨコナデ 体~底:ヘラナデ後ミガキ	6-16	
2	C-062	SIS	SK1堆積土 SK3堆積土	土埴器	坏	口縁~底	13.0	-	5.8	口縁:ヨコナデ 体~底:ヘラケズリ	口縁:ヨコナデ 体~底:ヘラナデ	6-15	
3	C-014	SIS	床面	土埴器	高坏	脚	-	-	(8.5)	脚:ヘラミガキ	脚:上層前 脚:下層前	-	
4	C-061	SIS	SK1最下層	土埴器	甕	口縁~ 体上半	(18.0)	-	(7.7)	口縁:ヨコナデ, 脚:ハケメ ヘラミガキ, 体上半:ハケメ	口縁:ヨコナデ 体~底:ヘラナデ後ミガキ	調整痕	6-16
5	D-005	SIS	厚板土	土埴器	坏	口縁~底	15.4	6.1	5.6	口縁~体:ロクロナデ 底:黒色処理	口縁~体:ヘラミガキ, 黒 色処理	内面調整痕	6-17
6	D-004	SIS	厚板土	土埴器	甕	口縁~体	(16.0)	-	(5.8)	口縁~体:ロクロナデ	口縁~体:ヘラミガキ	6-18	
図版番号	発掘番号	遺物	層位	種類	器種	部位	径長 (cm)			重量 (g)	石材	備考	写真図版
							長さ	幅	厚さ				
7	K-001	SIS	厚板土	石製模造品	剣形	(2.2)	1.8	0.5	2.4	緑色片岩	片面の刃部を義形、跡はなし、上部台形状、下部欠損	7-1	
8	K-002	SIS	厚板土	石製模造品	剣形	4.3	1.3	0.5	3.9	緑色片岩	面の表現がなく平坦	7-2	
9	K-003	SIS	床面	磨石	磨石	18.4	10.5	4.3	1328	安山岩	2カ所の敲打痕	7-3	

第13図 S15竪穴住居跡出土遺物

SI6竪穴住居跡（第14・15図、図版2）

- 【位置・重複】D地区J7グリッドに位置する。北、南、西辺は掘乱で失われており、東辺の一部が検出された。
- 【平面形・規模・方向】方形の掘り込みのうち、東辺の一部を検出したと思われるが、他は掘乱により失われているため平面形は不明である。検出された規模は、東西、南北長ともに2.2mで、東辺の方位はN-22°-Wである。
- 【堆積土】3層に分けられる。堆積土の中には焼土を含む層があった。
- 【床面・壁面】貼床や硬化面は確認されなかったが、掘り方底面を床面としている。壁面は垂直気味に立ち上がり、壁高10cmほどである。周溝は確認されなかった。
- 【柱穴】床面の中央部で2基のピットを検出したが、主柱穴については不明である。
- 【炉】炉跡は確認されなかった。2基のピットと土坑の間で、堆積土中に焼土が確認された。
- 【その他の施設】床面でSK1土坑1基を検出した。SK1は南側を掘乱により失われているが円形と考えられ、残存長は1m、深さは43cmで、中央部が窪む単層の土坑である。
- 【出土遺物】土師器高坏や壺などの小片が出土した。そのうち、高坏を図化した。第15図1は高坏の脚部である。外面はヘラミガキが施されている。



SI6竪穴住居跡 堆積土層記述

遺構・位置	層位	土色	土性	特徴
住居堆積土	1	10YR6/6 明黄褐色	砂質シルト	暗褐色砂を含む。粘性ややあり。
	2	2.5YR3/3 暗赤褐色	砂質シルト	明黄褐色土、焼土を含む。
	3	10YR6/6 明黄褐色	粘土質シルト	φ30mm以下の暗褐色砂ブロックを多量に含む。粘性ややあり。

SI6竪穴住居跡 施設遺構土層記述

遺構・位置	層位	土色	土性	特徴
SK1	1	10YR2/4 暗褐色	シルト質砂	に灰い灰色土を含む。焼土粒、炭化物をごく少量含む。
P2	4	10YR4/4 褐色	砂質シルト	褐色砂を含む。炭化物を含む。粘性ややあり、ややしまりあり。

第14図 SI6竪穴住居跡



図版番号	遺構番号	遺構名	層位	種類	形状	方位	寸法 (cm)			外周調整	内周測定	備考	写真図版
							口径	底径	器高				
1	C-016	SI6	堆積土	土師器	高坏	跡	-	-	(6.9)	跡：ヘラミガキ	跡下層：ナガカ	-	-

第15図 SI6竪穴住居跡出土遺物

SI7竪穴住居跡（第16・17図、図版2・7）

- 【位置・重複】D地区J7~9、K8・9グリッドに位置する。北側と南側は掘乱で失われ、中央部分のみの残存である。範囲内で多数の溝や土坑、ピットを検出した。重複関係からは、SD13、SD15とP117は住居跡より新しい遺構であり、床面上で検出されたその他の遺構はこの住居跡に伴うものと考えられる。
- 【平面形・規模・方向】平面形は掘乱により失われているため不明であるが、東西両辺の一部を検出し、方形と推定

される。検出された規模は、東西は6.2mで、南北は2.4mである。西辺を基準とする主軸の方位はN-22°-Eである。

【地積土】6層に分けられるが、すべて住居地積土である。

【床面・壁面】掘り方埋土はなく、方形に掘り窪めて床面としている。壁高10cmほどで、床面より垂直気味に立ち上がる。東辺は上部が削平されており、わずかに立ち上がる。周溝は確認されなかったが、床面でSD1・2、土坑、ピットが検出された。

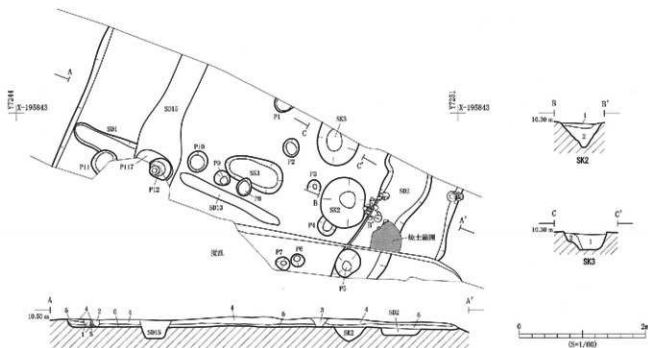
【柱穴】床面でピット12基が検出されたが、主柱穴は確認されなかった。P12からは土師器壺の口縁部片が出土した。

【炉】東側で焼土の範囲が確認されたが、地積土中の焼土であり、炉とは認められなかった。

【その他の施設】床面で3基の土坑を検出した。SK1は楕円形で長軸0.96m、深さ4cmである。SK2は円形で直径0.78m、断面は逆三角形で深さ41cmである。SK3は円形と推定でき、残存長0.67m、断面は逆台形で深さ32cmである。

【遺物出土状況】床面から土師器環、高環が出土し、堆積土中からは土師器壺、SD2からは土師器甕が出土した。P12の底面から土師器壺第17図9が正位で出土した。なお、SD1より碧玉製と考えられる管玉の破片が出土している。

【出土遺物】土師器片が出土した。そのうち土師器の環3点、高環2点、壺3点、甕1点、ロクロ土師器1点、石器1点を図化した(第17図)。1と2は環である。外面はヘラケズリ、内面はヘラナデ後ミガキで整形されている。1は丸底で、体部は直線的に開き、口縁部がやや内傾しているように見える。2は、口縁部が外反し、内面には後線が見える。3は環である。内面はヘラナデ、外面はヘラケズリ調整され、底部は台状である。4は高環の環部である。体部から口縁にかけて直線的に開いている。内外面ともミガキ調整されている。5は甕である。頸部が肥厚し、口縁部が外反する。外面はヨコナデとヘラナデ、内面はヘラナデで調整されている。6は高環の脚部である。外面はヘラミガキ、内面は



S17壁穴積層 堆積土層記述

層位・位置	層位	土色	土性	特徴
堆積土	1	10YR3/4 暗褐色	シルト質砂	φ20mm以下の明褐色土を多数含む。しりりあり。
	2	10YR3/4 暗褐色	シルト質砂	φ50mm以下の暗褐色土。明褐色土を含む。軟性ややあり、しりりあり。
	3	10YR3/4 暗褐色	シルト質砂	暗褐色。明褐色土を含む。しりりあり。
	4	10YR7/8 明褐色	砂質シルト	暗褐色土を含む。軟性ややあり、しりりあり。
	5	10YR6/8 明褐色	砂質シルト	φ20mm以下の暗褐色土を含む。軟性ややあり、しりりあり。
	6	10YR6/8 明褐色	砂質シルト	φ20mm以下の暗褐色土ブロックを多数含む。しりりあり。

S17壁穴積層 施設堆積土層記述

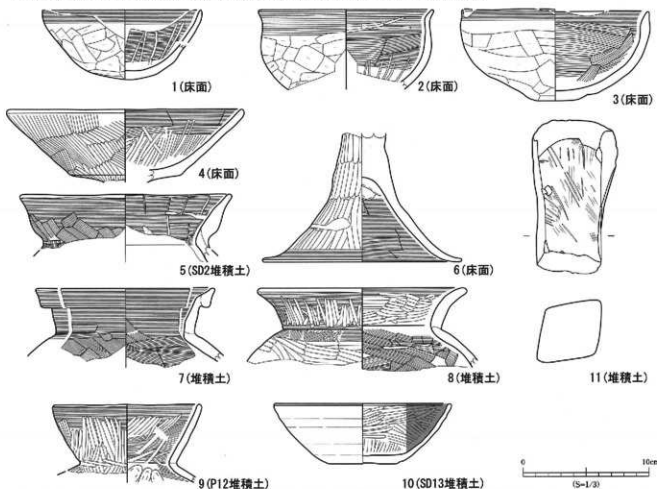
層位・位置	層位	土色	土性	特徴
SK2	1	10YR4/2 灰褐色	粘土質シルト	にぶい黄褐色土を含む。軟性ややあり、しりりあり。
	2	10YR6/2 濃い黄褐色	砂質シルト	にぶい黄褐色土を含む。
SK3	1	2.5YR/2 にぶい黄褐色	砂質シルト	にぶい黄褐色土を含む。しりりあり。
	2	10YR6/3 にぶい黄褐色	砂質シルト	にぶい黄褐色土を含む。
SD2	1	10YR4/3 にぶい黄褐色	シルト質砂	褐色土を含む。軟性ややあり、しりりあり。

SD15溝跡 埋積土層記述

層位・位置	層位	土色	土性	特徴
SD15	1	10YR4/6 褐色	シルト質砂	褐色土を含む。しりりあり。

第16図 S17壁穴住居跡

ヘラナデなどで調整されている。7は壺の口縁部である。突帯状に屈曲した口縁部が特徴である。8は甕の口縁部である。口縁部は屈曲して開き、器壁は体部より口縁部のほうが厚い。内外面ともヘラミガキによって調整されている。9は壺の口縁部である。内外面ともヨコナデとヘラミガキによって丁寧に調整され、薄手で直線的に上方へ開く。10はロクロ成形された坏である。SI7には伴わない後世の遺構SD13から出土した。磨減しているが底部には回転糸切り跡が確認でき、内面にはミガキと黒色処理が施されている。厚い底部に反して体部は薄い。11は砥石で、下半が欠れている。刃つぶしと考えられる傷と擦痕が各面にある。砂岩製で荒砥と考えられる。



図版 番号	器物 番号	遺構	層位	種類	素材	部位	法量 (cm)			外周調整	内周調整	備考	写真 図版
							口縁	底径	器高				
1	C-019	SB7	床面	土師器	坏	口縁～底	(13.0)	-	(5.5)	口縁：ヨコナデ 体～底：ヘラミガキ	口縁：ヨコナデ 体：ヘラミガキ	7-6	7-6
2	C-018	SB7	床面	土師器	坏	口縁～体	(13.7)	-	(6.3)	口縁～体上端：ヨコナデ 体：ヘラミガキ	口縁：ヨコナデ 体：ヘラミガキ	-	-
3	C-025	SB7	床面	土師器	坏	口縁～底	14.8	3.4	7.3	口縁：ヨコナデ 体上端：ヨコナデ 体：ヘラミガキ	口縁：ヨコナデ 体～底：ヘラミガキ	7-4	7-4
4	C-023	SB7	床面	土師器	高杯	口縁～体	(13.8)	-	(5.8)	口縁～体：ヘラミガキ	口縁～底：ヘラミガキ	口縁部底面彫か	7-8
5	C-027	SB7	SD13堆積土	土師器	高杯	口縁	(16.8)	-	(5.5)	口縁：ヨコナデ	口縁～底：ヘラミガキ	口縁部底面彫か	7-5
6	C-024	SB7	床面	土師器	高杯	脚	-	(15.8)	(10.2)	脚：ヘラミガキ 胴：ヨコナデ	脚上端：ヨコナデ 脚：ヘラミガキ	7-9	7-9
7	C-021	SB7	堆積土	土師器	甕	口縁～胴	(14.6)	-	(5.9)	口縁：ヨコナデ 胴：ヘラミガキ	口縁：ヨコナデ 胴：ヘラミガキ	7-11	7-11
8	C-027	SB7	堆積土	土師器	甕	口縁～胴	(16.6)	-	(6.4)	口縁：ヨコナデ 胴～脚：ヘラミガキ	口縁～底：ヘラミガキ 胴～脚：ヘラミガキ	7-10	7-10
9	C-022	SB7	P12堆積土	土師器	甕	口縁～胴	11.8	-	(6.2)	口縁上端：ヨコナデ 口縁～胴：ヘラミガキ	口縁上端：ヨコナデ 口縁～底：ヘラミガキ	カマド付近から出土	7-7
10	D-008	SD13	堆積土	土師器	坏	口縁～底	(13.8)	5.4	4.8	口縁～体：ロクロナデ 底：回転糸切り	口縁～底：ロクロナデ 体：黒色処理	7-12	7-12

第17図 SI7竪穴住居跡・SD13溝跡出土遺物

(2) 土坑

SK2土坑 (第18・19図、図版7)

A地区P20グリッドに位置する。重複する溝やSI3より新しいが、周囲は大きく攪乱により失われており、不整形形と考えられる。残存する規模は、長軸1.43m、短軸1.24mで、土坑の1/4程度の検出である。断面形は皿状で、壁面の下端部は丸みを帯びている。深さは20cmを測り、堆積土は暗褐色砂質シルトの単層である。遺物は土師器壺1点(第19図1)が出土し、図化した。1は体部球形のもので、口縁部が外反して立ち上がり、外面は段を形成し二重口縁のものである。器面の調整は口縁部上半の外面がヨコナデ、口縁部上半から頸部にかけては縦方向のハケメのちヘラナデのちヘラミガキが、内面は口縁部から頸にかけてヨコナデのち横方向のヘラミガキが丁寧に施されている。体部外面は頸部付近の上半が横方向のヘラミガキ、体部上半から下半は縦方向のヘラミガキ、内面が頸部付近の体部上半が横方向のヘラミガキ、体部上半の下半までヘラナデされ、全体に丁寧な作りである。

SK10土坑 (第18図、図版2)

A地区P21、Q21グリッドに位置する。東側は調査区外へ続く。重複する溝やSI3より新しい。平面形は隅丸形状と推定され、西側を検出した。検出された規模は、長軸3.2m、短軸1.5mである。断面形は逆台形状で、底面よりやや傾斜して立ち上がる。深さは45cmで、堆積土は7層に分けられる。ブロック上を多く含むことから、人為的に埋め戻されたと考えられる。遺物は土師器の小片が少量出土した。なかには黒色処理されたロクロ土師器環が含まれている。

SK14土坑 (第18・19図)

B地区M15グリッドに位置する。平面形は楕円形である。検出された規模は長軸0.75m、短軸0.65mである。断面形はV字形、深さは68cmである。堆積土は暗褐色シルトを主体とし、3層に分けられる。遺物は土師器片が出土し、そのうち土師器壺と甕を図化した(第19図2~4)。2は甕の口縁部である。口縁部より薄い体部は緩やかに内傾し、口縁部との境には明瞭な稜線はない。3、4は壺の口縁部である。両者とも段状の口縁部が特徴で、頸部は直立気味に立ち上がっている。ヨコナデとハケメの他に、2と3はヘラナデ、4はヘラナデとヘラミガキが施されている。

SK16土坑 (第18図)

B地区L15グリッドに位置する。重複するP67より古い。平面形は長楕円形で、規模は長軸0.94m、短軸0.6m以上である。断面形は皿状で、深さは10cmである。堆積土は暗褐色砂質シルトを主体とし、2層に分けられる。遺物は土師器とロクロ土師器片が出土した。

SK17土坑 (第18図)

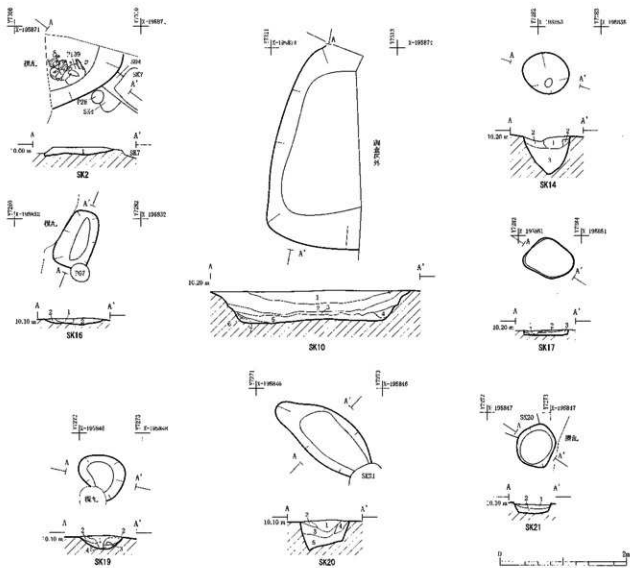
B地区L15グリッドに位置する。平面形は不整形形で、規模は長軸0.70m、短軸0.56mである。断面形は方形で、深さは8cmである。堆積土は褐色シルト質砂が主体で、3層に分けられる。遺物は出土しなかった。

SK19土坑 (第18・19図、図版7)

C地区K13グリッドに位置する。南側は攪乱により失われている。平面形は不整形形である。検出された規模は長軸0.74m、短軸0.66mである。断面形はU字形で、深さは22cmである。堆積土は褐色シルトを主体とし、4層に分けられる。遺物は土師器片と須恵器片が出土し、そのうち須恵器長頸壺(第19図5)を図化した。5は須恵器の瓶頸の口縁部で、P53と遺構確認から出土した小片が接合したものである。

SK20土坑 (第18図)

C地区K13グリッドに位置する。重複するSK21より古い。平面形は不整形楕円形と推定でき、検出された規模は長軸1.65m、短軸0.80m以上である。断面形は逆台形で、深さは46cmである。堆積土は黄褐色シルト質砂を主体とし、5層に分けられる。遺物は土師器片が出土した。



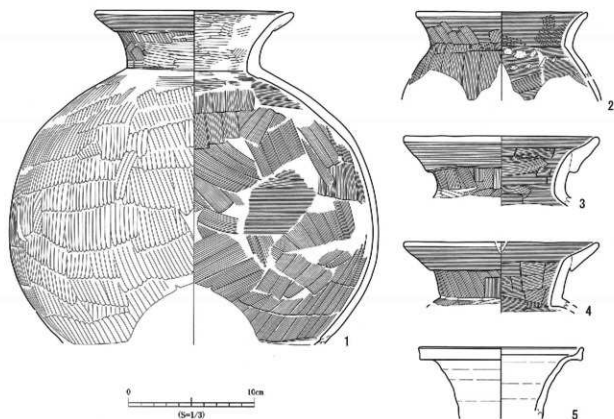
平成21年度 土坑検出状況表

遺構・位置	層位	土色	土性	特徴
SK2	1	10YR3/3 暗褐色	砂質シルト	φ5cm以下の黄褐色土ブロックを多量に含む。粘粒や中あり。
	2	10YR4/4 緑褐色	粘土質シルト	腐化殻を多量に含む。粘性あり。
	3	10YR2/3 暗褐色	粘土質シルト	φ10~100mm程度の灰褐色土ブロックを多量に。φ20mm以下の暗褐色土を層状に少量含む。粘粒あり。
	4	10YR4/4 暗褐色	粘土質シルト	φ10cm以下の黄褐色土ブロック。腐化殻を多量に含む。粘性あり。
SK10	1	10YR6/3 暗褐色	硬粘土	腐化殻を多量に含む。粘性あり。
	2	10YR2/2 灰黄褐色	粘土	腐化殻を含む。粘性あり。
	3	10YR3/4 暗褐色	粘土質シルト	腐化殻を含む。粘性あり。
	4	10YR4/6 褐色	シルト	腐化殻のφ100mm次のブロックを含む。
	5	10YR2/2 暗褐色	シルト質砂	1層を含む。
	6	10YR4/4 暗褐色	シルト	腐化殻を多量に含む。
	7	10YR4/3 暗褐色	シルト	φ5cm以下の褐色砂を含む。
SK14	1	7.5YR3/4 暗褐色	シルト	腐化殻のφ100mm次のブロックを含む。
	2	10YR4/6 褐色	シルト質砂	1層を含む。
	3	10YR2/2 暗褐色	砂質シルト	腐化殻を多量に含む。
SK16	1	10YR3/3 暗褐色	シルト	φ10cm以下の黄褐色砂を含む。
	2	10YR4/4 暗褐色	シルト質砂	φ10cm以下の黄褐色土ブロックを多量に含む。粘性あり。
	3	10YR4/4 暗褐色	シルト	φ10cm以下の黄褐色土ブロックを少量含む。
SK17	1	10YR4/4 暗褐色	シルト	暗褐色砂、黄褐色砂を含む。しまりあり。
	2	10YR3/3 暗褐色	シルト質砂	灰黄褐色砂を含む。しまりあり。
	3	10YR4/4 暗褐色	シルト	灰黄褐色砂を含む。しまりあり。
SK19	1	10YR4/4 暗褐色	シルト質砂	暗褐色砂を含む。しまりあり。
	2	10YR3/3 暗褐色	シルト	灰黄褐色砂を含む。しまりあり。
	3	10YR4/4 暗褐色	シルト質砂	灰黄褐色砂を含む。しまりあり。
	4	10YR4/6 褐色	シルト	灰黄褐色砂を含む。しまりあり。
SK20	1	10YR4/4 暗褐色	シルト質砂	φ10mm以下の黄褐色土を含む。やしまりあり。
	2	10YR3/3 暗褐色	砂質シルト	灰黄褐色砂を含む。やしまりあり。
	3	10YR4/3 暗褐色	シルト	暗褐色砂を含む。φ20mm以下の黄褐色土ブロックを少量含む。
	4	10YR3/3 暗褐色	シルト	暗褐色砂を含む。φ20mm以下の黄褐色土ブロックを少量含む。
	5	10YR3/3 暗褐色	シルト	φ10mm以下の暗褐色砂を層状に。φ10mm以下の黄褐色土ブロックを少量含む。
SK21	1	10YR4/2 灰黄褐色	細砂	φ10mm以下の黄褐色土ブロックを多量に含む。しまりあり。
	2	10YR4/4 褐色	シルト質砂	暗褐色砂、黄褐色砂を含む。

第18図 土坑 (平成21年度V層上面)

SK21土坑（第18図）

C地区K13グリッドに位置する。重複するSK20より新しい。平面形は不整形形と推定でき、規模は長軸0.64m、短軸0.60mである。断面形は逆台形、深さは68cmである。堆積土は褐色シルト質砂を主体とし、2層に分けられる。遺物は土師器片が出土した。



図版番号	登録番号	遺構	層位	種類	素材	形状	法量 (m)		外周形状	内周調整	備考	写真掲載
							口径	底径				
1	C-011	SK2	下層	土師器	土	口縁～体	15.8	-	口縁上: ココナデ、口縁下層: ハクメ→ココナデ→ヘラミギキ 体: ヘラミギキ→ヘラミギキ 体: ヘラミギキ	口縁: ココナデ→ヘラミギキ 体: ヘラミギキ	外周口縁部に工具痕有り。	7-14
2	C-058	SK14	下層	土師器	土	口縁～体	(12.6)	-	口縁～体: ハクメ→ココナデ→ヘラミギキ 体: ハクメ→ヘラミギキ	口縁: ココナデ 体: ハクメ→ココナデ	内部欠損部分は復元ハジケ。	-
3	C-059	SK14	下層	土師器	土	口縁～体	(15.3)	-	口縁: ココナデ、一部ヘラミギキ 体: ヘラミギキ	口縁: ココナデ→ヘラミギキ 体: ヘラミギキ		7-15
4	C-060	SK14	下層	土師器	土	口縁～体	(15.5)	-	口縁: ココナデ 体: ヘラミギキ→ヘラミギキ	口縁: ココナデ 体: ヘラミギキ		7-16
5	E-001	SK19	堆積土	傾面跡	土	口縁～底	(13.0)	-	口縁～底: ロクロナデ	口縁～底: ロクロナデ	PS3E 遺構断面から出土した破片と整合	7-17

第19図 土坑（平成21年度V層上面）出土遺物

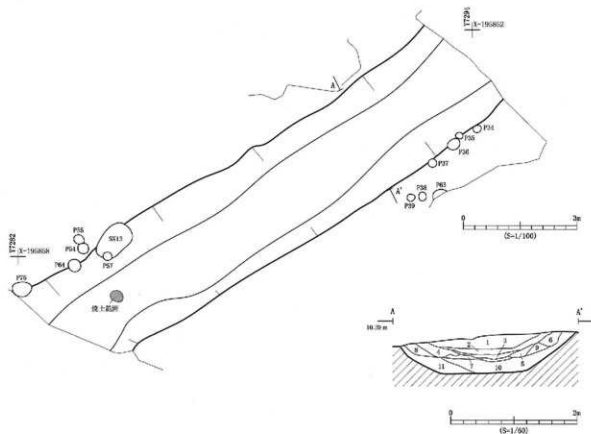
(3) 溝跡

SD10溝跡（第20・21図、図版3・8）

B地区L16・17、M15～17、N15・16グリッドに位置する。南北両端は攪乱により失われている。ビットやSK13と重複するがすべて溝より新しい。検出された規模は、長さ12.7m、残存する上端幅は2.9m、下端幅は1.4mで、N-56°-Eの方向に直線的に延びている。断面形は逆台形である。底面に段を有する部分がある。深さは60cmほどで、底面は部分的に凹凸があるもの、北に向かって傾斜する。堆積土は1層に分けられる。堆積状況はレンズ状の自然堆積を示すが、4～7層には多くのブロック土が混ざっている。

遺物は、弥生土器片や土師器片、石器などが出土した。上層から出土した遺物が多く、下層から出土した遺物は少ない。これらのうち土師器壺2点、甕2点、石器3点を図化した（第21図）。1と2は甕である。いずれも緩やかな曲線の体部と、緩やかに外反する口縁部をもつ。1は内外面ともにヘラミギキで整形されており、口縁部の下位が肥厚する。2

は外面にヘラミガキが施されている。3は壺類の底部である。ヘラナダとヘラケズリ調整を確認できた。4は小型の壺である。内面はユビ調整のみならず体部はヘラナダも施されている。5は上部が欠損した太型輪刈石斧である。両主面及び側面に敲打痕とその後の研磨痕を残している。また、欠損後に上部の一部が剥離されており、縁辺部の一部が磨滅している。再加工した可能性がある。6と7は二次加工がある剥片で、石材は流紋岩である。6は右側縁に二次加工が施される。



SD10溝跡 地盤土層記表

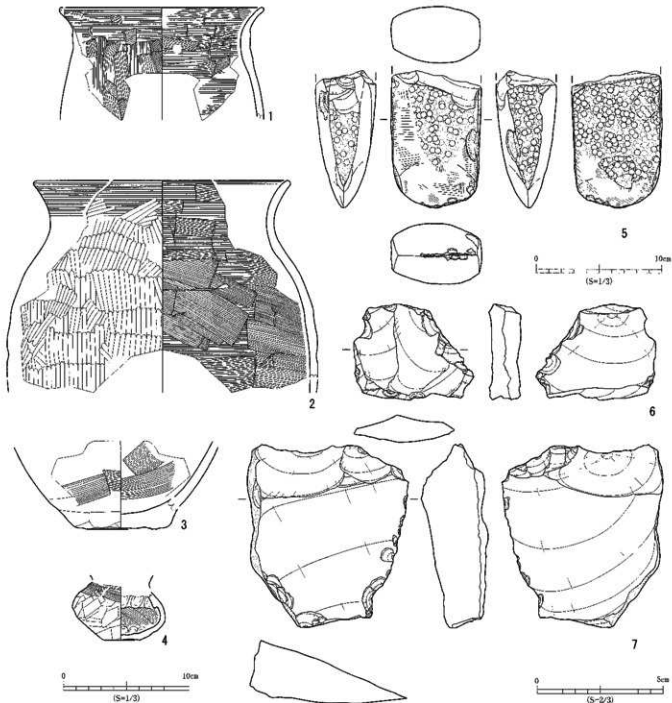
遺構・位置	層位	土色	土性	特徴
SD10	1	10YR3/4 暗褐色	シルト	明褐色砂を含む。しりりあり。
	2	10YR4/3 にぶい黄褐色	シルト質砂	φ5mm以下の灰黄褐色土質砂、明褐色細砂と互層状に含む。
	3	10YR3/4 暗褐色	シルト質砂	褐色土質砂、浅黄色土を含む。底面に酸化鉄皮層。粘性ややあり、ややしりりあり。
	4	10YR3/3 暗褐色	シルト質砂	φ30mm以下の黄褐色土ブロックを少量含む。しりりあり。
	5	10YR3/2 暗褐色	砂	φ10mm以下の黄褐色土ブロックを多量に含む。
	6	10YR4/4 褐色	シルト質砂	明褐色細砂を含む。粘性ややあり。しりりあり。
	7	10YR5/5 明黄褐色	シルト	褐色土質砂を含む。φ10mm以下の灰黄色細砂を含む。粘性ややあり。
	8	10YR6/5 明黄褐色	シルト質砂	φ20mm以下の暗褐色土ブロックを多量に。灰化物を少量含む。
	9	10YR6/8 明黄褐色	粘土質シルト	褐色砂を含む。灰化物を少量含む。粘性ややあり。
	10	10YR5/4 にぶい黄褐色	粘土質シルト	褐色砂を含む。粘性ややあり。
	11	10YR3/3 にぶい黄褐色	砂	褐色砂を部分的に多量に含む。

第20図 SD10溝跡

SD11溝跡 (第22・23図、図版3・8)

C地区J11・12、K10~12、L11グリッドに位置する。南北両端と西の肩は攪乱により失われている。検出された規模は、長さ10.2m、上端幅4.6m以上、下端幅1.90mで、N-27°-Eの方向に直線的に延びている。断面形は逆台形と推定できるが、底面は幅2.3mで一段下がっている。深さは96cmで、底面の標高は、部分的に凹凸はあるものの、南側に向かって緩やかに傾斜している。堆積土は12層に分けられる。

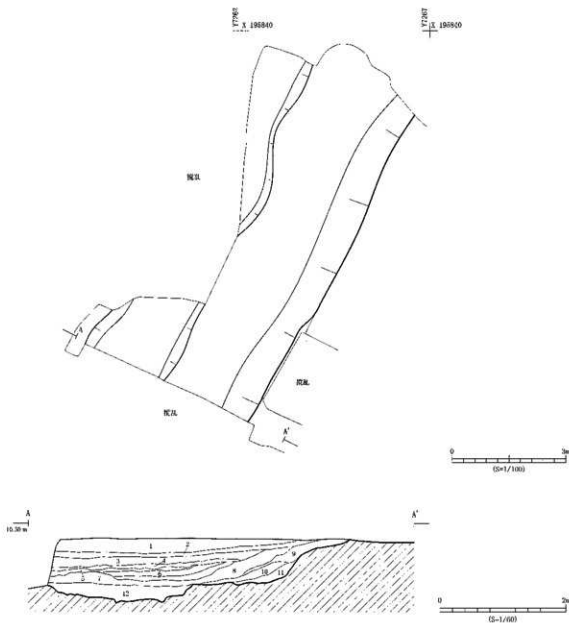
遺物は弥生土器片、土師器片、須恵器片、石器、鉄製品などが出土し、そのうち土師器高環2点、壺2点、礫石器1点、鉄鏃1点を図化した(第23図)。1と2は高環の脚部である。1の脚部外面と環部の内面はヘラミガキが施されている。2の外面はヘラミガキで整形されており、裾部は屈曲する。3は壺である。外面は底部までヘラケズリが施され、体部



図版 番号	登録 番号	遺構	層位	種類	器種	寸法 (cm)			重量 (g)	石材	備考	写真 図版	
						口径	幅	高さ					
1	C-029	SD10	上層	土師器	甕	口縁~体	(16.2)	-	(6.9)	口縁：ヘラナダ→ヨコナダ 胴~体：ヘラナダ	口縁~体：ヘラナダ	-	
2	C-027	SD10	上層	土師器	甕	口縁~体	(20.4)	-	(16.8)	口縁：ヨコナダ 胴~体：ヘラミガキ	口縁上縁：ヨコナダ 口縁~体：ヘラナダ	82	
3	C-028	SD10	上層、 下層	土師器	甕	体下部~底	-	7.4	-	体下部：ヘラナダか 底：ヘラケズリ	体下部~底：ヘラナダ	-	
4	C-028	SD10	上層	土師器	甕	胴~底	-	3.0	(4.6)	胴：ヘラナダ 体~底：ヘラケズリ	胴：ユビオサエ、 体：ヘラナダ・ユビナダ 底：ユビオサエ	体部の一部に木刺 か。	81
5	K-006	SD10	中層	磨製石器	太形鋸刀 石斧		(18.5)	(7.2)	(4.8)	(548.3)	火山岩	釧打により形を成形している。上部が折れて いる。	83
6	K-027	SD10	上層	打製石器	刺針		3.8	4.2	1.3	19.7	流紋岩		84
7	K-036	SD10	上層	打製石器	刺針		7.3	6.4	2.7	94.7	流紋岩	二次加工あり。	85

第21図 SD10溝跡出土遺物

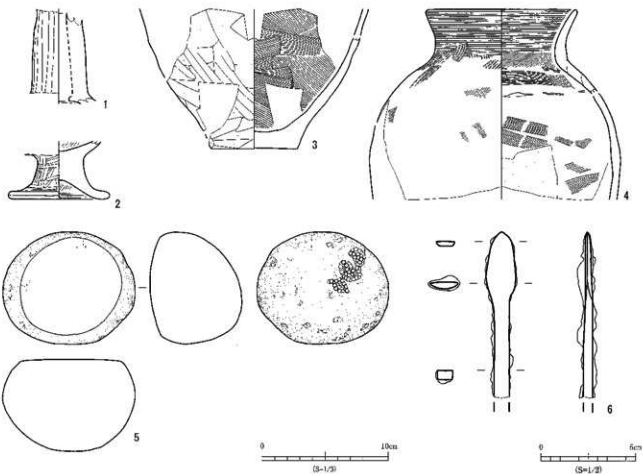
には幅の広いヘラミガキ調整がなされている。体部は緩やかに開いて上方に立ちあがる。4は甕である。体部外面にハケメが見られる。体部は丸味をおび、11線部は緩やかに開きながら立ち上がる。体部と口縁部の境が肥厚する。5は磨石である。磨面の背面に敲打痕が3か所ある。6は鉄鏝で、有茎の柳刈形と考えられる。なお、須臾器片が下層から出土したが、小破片のため図化はできなかった。



SD11溝跡 巧線土層図表

遺構・遺物	層位	土色	土質	特徴
SD11	1	10YR2/2 紅褐色	シルト質砂	灰青褐色土や灰黄褐色砂を含む。酸化鉄を多量に含む。粘性ややあり、しまりあり。
	2	10YR2/4 暗褐色	シルト	φ10mm以下の灰青褐色土ブロックを少量、灰化物を少量含む。粘性ややあり、しまりあり。
	3	10YR3/2 暗褐色	シルト質砂	に灰い黄褐色土を含む。灰化物を少量含む。粘性ややあり、しまりあり。
	4	10YR3/4 暗褐色	シルト	φ5mm以下の灰青褐色土ブロックを多量に、灰化物を少量含む。粘性ややあり、しまりあり。
	5	10YR2/2 灰褐色	シルト	φ5mm以下の灰青褐色土を多量に、灰化物を少量含む。粘性ややあり。
	6	10YR4/2 灰青褐色	粘土質シルト	暗青褐色土を含む。酸化鉄を多量に、灰化物を少量含む。粘性ややあり。
	7	10YR3/2 暗褐色	砂質シルト	灰青褐色土を含む。φ5mm以下の暗青褐色土ブロックを少量、灰化物を多量に含む。粘性ややあり。
	8	10YR4/2 灰青褐色	シルト質砂	酸化鉄を多量に含む。粘性ややあり。
	9	10YR4/2 に近い黄褐色	砂	φ10mm以下の黄褐色土ブロックを含む。粘性ややあり、しまりあり。
	10	10YR3/4 暗褐色	シルト	φ20mm以下の黄褐色土ブロックを含む。
	11	10YR4/4 褐色	砂	に灰い黄褐色土、灰褐色砂を含む。しまりあり。
	12	10YR5/2 灰黄褐色	シルト	黄褐色細砂、褐色細砂を含む。ややしまりあり。

第22図 SD11溝跡



図録番号	発掘番号	表層	層位	種類	器種	部位	径長 (cm)			外周調整	内面調整	備考	写真図版
							口径	高さ	器厚				
1	C-031	SD11	最下層	土師器	甕	胴	-	-	(7.2)	脚：ヘラミガキ	脚：Lはり板	-	-
2	C-032	SD11	中層	土師器	高坏	坏底-脚	-	8.0	(4.6)	坏底-脚：ヘラミガキ 脚：ヨコナデ+ヘラミガキ	坏底：ヘラミガキ、脚：ヘラミガキ、脚：ナデ	-	86
3	C-036	SD11	上層	土師器	甕	体-底	(18.1)	6.8	(1.1)	体：ヘラミガキ+ヘラミガキ 底：ヘラミガキ	体-底：ヘラナデ	ヘラミガキ後に一部焼成いヘラミガキがある。	87
4	C-031	SD11	上層	土師器	甕	L脚-体	12.0	-	(15.1)	口縁：ヨコナデ 脚：ヨコナデ+ハケム 体：ヘラナデ	口縁：ヨコナデ 脚-体：ヘラナデ	-	88

図録番号	発掘番号	表層	層位	種類	器種	径長 (cm)			重量 (g)	石材	備考	写真図版
						長さ	幅	厚さ				
5	K-014	SD11	中層	磨石器	磨+磨石	8.9	10.5	7.3	997.6	安山岩	作置3ヶ所に磨打痕あり	89

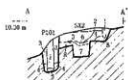
図録番号	発掘番号	表層	層位	種類	器種	径長 (cm)			重量 (g)	備考	写真図版
						長さ	幅	厚さ			
6	N-001	SD11	下層	鉄製品	鉄鏃	(9.7)	(1.7)	1.0	12.4	有蓋種刀型か	8-10

第23図 SD11溝跡出土遺物

(4) 性格不明遺構

SX2性格不明遺構 (第24図、図版3)

D地区K9グリッドに位置する。平面形は大部分が攪乱により失われている。検出された西辺の一部から、平面形は方形と考えられる。地積土は8層に分けられる。重複する柱穴P101の方が新しい。遺物は土師器の小片が出土しているが図化できるものはない。



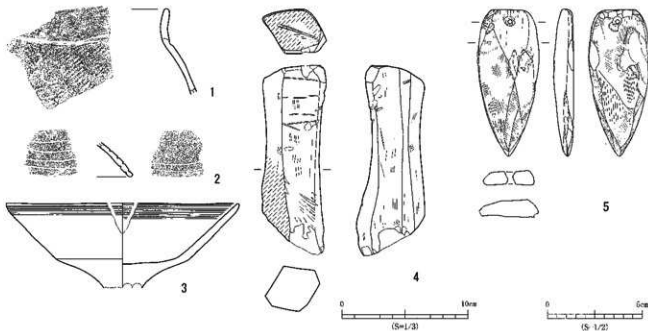
SX2性格不明遺構 埋蔵十進法表

遺構・位置	層位	土色	土性	特徴
SX2	1	10YR4/4 褐色	軟土質シルト	φ10cm以下の暗褐色ブロックを含む。粘性あり。
	2	10YR4/5 褐色	シルト質砂	φ5cm以下の黄褐色土を少量含む。粘性ややあり。しまりあり。
	3	10YR4/4 暗褐色	砂質シルト	にぶい黄褐色砂、褐色砂を含む。粘性を少量含む。しまりあり。
	4	10YR4/4 褐色	砂	φ5cm以下のにぶい黄色砂を少量含む。しまりあり。
	5	10YR4/6 褐色	粘土質シルト	粘性ややあり。しまりあり。
	6	10YR4/6 褐色	砂質シルト	暗褐色土を含む。
	7	10YR4/4 褐色	砂質シルト	褐色土を含む。φ10cm以下のにぶい黄色土を含む。粘性ややあり。しまりあり。
	8	10YR5/1 にぶい黄褐色	シルト	粘褐色土を含む。粘性ややあり。ややしまりあり。
P101	1	10YR3/4 暗褐色	粘土質シルト	粘褐色。粘性ややあり。
	2	2.5Y7/1 にぶい黄色	シルト	粘褐色。粘性少量含む。
	3	10YR3/4 暗褐色	シルト	φ10cm以下の黄褐色ブロックを少量含む。
	4	2.5Y7/2 灰黄色	粘土質シルト	粘性あり。ややしまりあり。

第24図 SX2性格不明遺構

(5) 遺構外出土遺物 (第25図、図版8)

1は縄文土器深鉢形土器である。短頸で口縁部は直立する。外面の体部にはLRの縄文と沈線、口縁部にはミガキが施されており、胴部には層状に煤が付着している。内面はミガキが施されている。2は弥生土器蓋の口縁部である。植物茎回転文の後に磨消される。3は土器器高環の坏部である。内外面とも摩耗が著しい。体部から底部にかけて屈曲する。4は砥石である。各面が凹面になっており、擦痕と対つぷし痕が確認された。5は緑色片岩製の剣形の石製模造品である。刃は両面共に表現されているが、裏面は先端部のみで、錆もない。



国庫 番号	発掘 番号	遺構	層位	種別	器種	部位	外面調整	内面調整	備考	写真 図版			
1	A-005	褐色	-	縄文土器	深鉢	口縁-体上部	口縁ミガキ、体部LR縄文、沈線	ミガキ		S-17			
2	B-010	褐色	-	弥生土器	蓋	口縁部	植物茎回転文、磨消縄文	平行波縄文、ミガキ	内面ニス付着	S-15			
国庫 番号	発掘 番号	遺構	層位	種別	器種	部位	長さ (cm)	重量 (g)	外面調整	内面調整	備考	写真 図版	
3	C-067	-	IV層	土器部	高環	口縁-坏部	(18.0)	(8.7)	口縁：ヨコナテ 体-坏部：不明	口縁：ヨコナテ 体-坏部：不明	内外面磨部等残	S-11	
国庫 番号	発掘 番号	遺構	層位	種別	器種	長さ (cm)	長さ (cm)	重量 (g)	石種	備考	写真 図版		
4	K-012	-	V層上面	石製品	砥石	長さ	15.0	5.4	2.9	209.7	硯石	地山崖上、位上1号坑内	S-11
5	K-013	-	V層上面	石製模造品	剣形	長さ	7.8	3.3	1.1	33.9	緑色片岩	地山崖上	S-15

第25図 遺構外出土遺物

3. 小結

今回の調査によって、縄文時代から中世に至るまでの遺構や遺物を確認した。縄文時代や弥生時代については、縄文土器、弥生土器と石器が出土したのみで、遺構は検出されなかった。

古墳時代では竪穴住居跡が6軒（SI1～3、SI5～7）、溝2条（SD10・11）が確認され、遠見塚古墳が築造された時期とそのうち、近接する場所で集落が営まれていたことが確認できた。

平安時代以降に属する遺構は、竪穴住居跡1軒（SI4）と土坑1基（SK10）を確認した。この時代の遺物量は古墳時代と比べてかなり少なく、7世紀以降の集落の縮小傾向は、南小泉遺跡全体でみられる傾向と一致すると考えられる。

第6章 平成22年度の調査

1. 調査の概要

平成22年度は、E地区とF地区の2地区の調査を行った。調査面積は537㎡である。F地区の遺構は削平されていたが、E地区ではⅣe層とⅤ層で遺構が検出された。確認された遺構は、掘立柱建物跡2棟、柱穴列5列、ピット152基、土坑17基、溝6条、性格不明遺構1基である。

E地区

この調査区は旧小学校の校舎の基礎工事によって攪乱されている。基礎による攪乱は、一辺約5mを測る正方形で10か所を数えるが、特に南東部は広い範囲にわたって攪乱を受けており、深さは表土から2m下まで達していた。遺構面が残存していた箇所は北部と西部、中央の一部のみであった。

調査区の西壁沿い中央部分で幅約3m、長さ約18mにわたり、基本層序のⅣ層が確認された。Ⅳ層の上部は耕作により攪乱されていたが、Ⅳe層より下位は遺存していたため、遺構が検出された。

Ⅳe層上面では、掘立柱建物跡2棟、柱穴列5列、ピット133基、土坑9基、溝1条を確認した。Ⅴ層上面ではピット19基、土坑8基、溝5条、性格不明遺構1基を確認した。

F地区

旧小学校校舎の南辺部分に該当する。A地区の西側とD地区の南側に長さ5m、幅1mの調査区を設定した。調査の結果、盛土が深さ2mまで達しており、遺構面が削平されていた。

2. Ⅳe層上面検出遺構と出土遺物

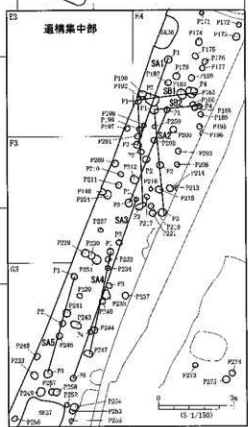
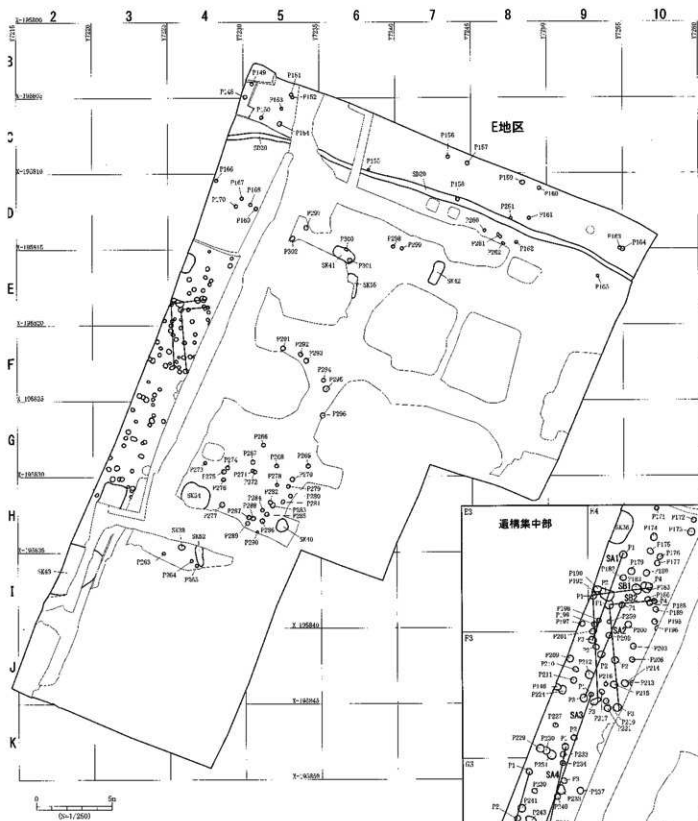
(1) 掘立柱建物跡・柱穴列

SB1掘立柱建物跡（第27図）

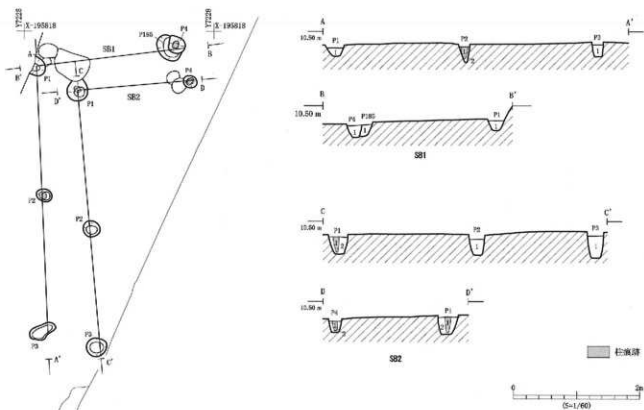
E地区E4、F4グリッドに位置する。SB2と重複する位置にあるが、柱穴は重複していないため、前後関係は不明である。柱間は2×1間以上で、4.2×2.2m以上の側柱建物と考えられる。柱穴の平面形は不整形で、大きさは25～43cm、深さは18～29cmである。P2とP4で柱痕跡が確認された。柱痕跡は直径13cmと21cmである。西側の方位はN4°Eである。遺物は出土しなかった。

SB2掘立柱建物跡（第27図、図版4）

E地区E4、F4グリッドに位置する。SB1と重複する位置にあるが、柱穴は重複していないため、前後関係は不明である。柱間は2×1間以上で、4.1×1.8m以上の側柱建物と考えられる。柱穴の平面形は不整形で、大きさは22～36cm、深さは20～41cmである。柱痕跡を確認できたのはP1とP4で、柱痕跡は直径12cmと10cm、芯々間の距離は1.8mである。掘り方厚土は褐色で共通する。西側の方位はN4°Eである。遺物は出土しなかった。



第26図 Ie層上面検出遺構配置図(平成22年度調査区)



SB1掘立柱建物跡 地層上記載表

遺構	層位	土色	土質	特徴
SB1	P1	1 10YR3/1 無褐色	粘土質シルト	φ10mm程度の褐色土ブロックを多数含む。φ10mm程度の炭化物を少量含む。
	P2	1 2.5Y4/1 黄灰色	シルト質砂	柱痕跡。φ3mm程度の褐色土を含む。赤褐色土ブロック、φ2mm程度の炭化物を少量含む。
		2 10YR4/6 褐色	シルト質砂	赤褐色土を多数含む。
	P3	1 2.5Y4/1 黄灰色	シルト質砂	黄褐色砂を多く含む。
	P4	1 10YR3/1 黒褐色	粘土質シルト	に濃い黄褐色土、黄褐色土を含む。
P1S5	1 10YR4/6 褐色	シルト質砂	黒褐色土を含む。φ2mm程度の赤褐色土ブロックを少量含む。	

SB2掘立柱建物跡 地層上記載表

遺構	層位	土色	土質	特徴
SB2	P1	1 2.5Y3/2 無褐色	シルト質砂	柱痕跡。φ10mm以下の褐色土ブロックを多数含む。
		2 10YR4/6 褐色	シルト質砂	無褐色土を含む。φ2mm程度の赤褐色土ブロックを少量含む。
	P2	1 2.5Y3/2 無褐色	シルト質砂	褐色土、炭化物を含む。
	P3	1 10YR4/3 に濃い黄褐色	シルト質砂	黄褐色土を含む。φ5mm程度の赤褐色土ブロックを少量含む。
	P4	1 2.5Y3/1 無褐色	シルト質砂	柱痕跡。褐色土を含む。
2 10YR4/4 褐色		シルト質砂	φ5mm程度の黒褐色土ブロックを少量含む。	

第27図 SB1・2掘立柱建物跡

SA1柱穴列 (第28図、図版4)

E地区E4、F3・4グリッドに位置する。確認された柱間は2間で、長さは3.72mである。西側の調査区外へ続く掘立柱建物跡の一部の可能性がある。柱穴の平面形は円形と不整形で、大きさは28～56cm、深さは15～29cmである。3基のビットで柱痕跡を確認できた。P1とP2の芯々間の距離は1.74mで、P2とP3の距離は1.89mである。柱痕跡の直径はP1が14cm、P2は17cm、P3は11cmである。方向はN-19°Eである。遺物は出土しなかった。

SA2柱穴列 (第28図、図版4)

E地区E4、F3・4グリッドに位置する。確認された柱間は2間で、長さは3.84mである。西側の調査区外へ続く掘立柱建物跡の一部の可能性がある。柱穴の平面形は円形で、大きさは24～31cm、深さは21～27cmである。柱痕跡を確認できたのはP2とP3で、芯々間の距離は1.86mである。柱痕跡の直径はP2が13cm、P3は9cmである。方向はN-22°Eである。遺物は出土しなかった。

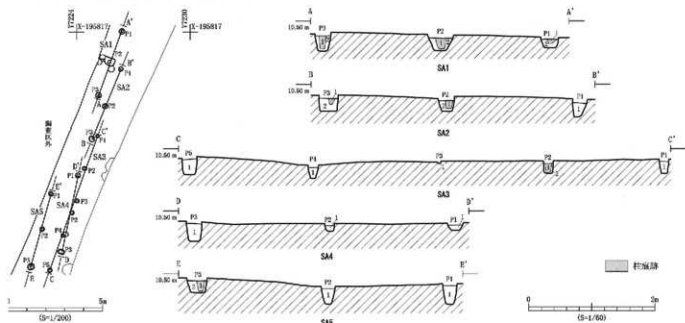
SA3柱穴列 (第28図、図版4)

E地区F3、G3グリッドに位置する。SA4と重複する位置にあるが、柱穴が重複していないため、前後関係は不明である。確認された柱間は4間で、長さは7.5mである。西側の調査区外へ続く掘立柱建物跡の一部の可能性がある。柱穴

の平面形は円形で、大きさは18~24cm、深さは19~25cmである。柱痕跡を確認できたのはP2で、柱穴跡の直径は13cmである。方向はN-20°-Eである。遺物はP1から土師器片が出土した。

SA4柱穴列 (第28図、図版4)

E地区P3、G3グリッドに位置する。SA3と重複する位置にあるが、柱穴が重複していないため、前後関係は不明である。確認された柱間は2間で、長さは4.14mである。西側の調査区外へ続く掘立柱建物跡の一部の可能性がある。柱穴の平面形は円形と隅丸方形で、大きさは23~35cm、深さは11~32cmである。柱痕跡を確認できたピットはない。方向はN-12°-Eである。遺物は出土しなかった。



SA1柱穴列 堆積土層記表

遺構	層位	土色	土性	特徴	
SA1	P1	1	25Y3/1 黒褐色	シルト質砂	柱痕跡、φ30cm以下の黒褐色土ブロックを含む。φ50cm以下の赤褐色土ブロックを含む。φ30cm以下の炭化物を少量含む。
		2	10YR4/4 褐色	シルト質砂	φ50cm層の赤褐色土ブロックを含む。φ30cm以下の赤褐色土ブロックを少量含む。
	P2	1	25YR4/1 赤褐色	シルト質砂	柱痕跡、赤褐色土を含む。φ30cm以下の赤褐色土ブロックを少量含む。
		2	10YR4/6 褐色	シルト質砂	柱痕跡、赤褐色土を含む。φ30cm以下の赤褐色土ブロックを少量含む。
		1	10YR4/6 褐色	シルト質砂	柱痕跡、φ30cm以下の赤褐色土ブロックを少量含む。
		2	25Y4/1 黄褐色	シルト質砂	褐色土を含む。φ30cm以下の赤褐色土ブロックを少量含む。

SA2柱穴列 堆積土層記表

遺構	層位	土色	土性	特徴	
SA2	P1	1	25Y3/2 黒褐色	シルト質砂	褐色土を含む。
		2	25Y4/1 赤褐色	シルト質砂	柱痕跡、褐色土を含む。φ30cm以下の赤褐色土ブロックを少量含む。
	P2	1	10YR4/6 褐色	シルト質砂	φ30cm以下の赤褐色土ブロックを少量含む。
		2	10YR4/6 褐色	シルト質砂	柱痕跡、褐色土を含む。φ50cm以下の炭化物を少量含む。
		1	25Y3/1 黒褐色	シルト質砂	柱痕跡、褐色土を含む。φ50cm以下の炭化物を少量含む。
		2	10YR4/4 褐色	シルト質砂	φ10cm以下の黒褐色土ブロックを少量含む。

SA3柱穴列 堆積土層記表

遺構	層位	土色	土性	特徴	
SA3	P1	1	10YR4/3 に近い黄褐色	シルト質砂	灰褐色土を含む。炭化物を少量含む。
		2	25Y3/2 黒褐色	シルト質砂	柱痕跡、φ30cm以下の赤褐色土ブロック、φ50cm以下の炭化物を少量含む。
	P2	1	10YR4/6 褐色	シルト質砂	褐色土、20cm厚の炭化物を少量含む。
		2	10YR4/1 赤褐色	シルト質砂	褐色土を含む。炭化物を少量含む。
		1	10YR4/1 赤褐色	シルト質砂	褐色土を含む。φ30cm以下の赤褐色土ブロックを少量含む。
		2	10YR4/6 褐色	シルト質砂	φ50cm以下の赤褐色土ブロックを少量含む。

SA4柱穴列 堆積土層記表

遺構	層位	土色	土性	特徴
SA4	P1	10YR4/1 赤褐色	シルト質砂	炭化物を少量含む。
	P2	10YR4/6 褐色	シルト質砂	φ30cm以下の赤褐色土ブロックを少量含む。
	P3	10YR2/1 紫褐色	粘土質シルト	褐色土を含む。φ30cm以下の赤褐色土ブロック、φ30cm以下の炭化物を少量含む。

SA5柱穴列 堆積土層記表

遺構	層位	土色	土性	特徴	
SA5	P1	1	10YR4/6 褐色	シルト質砂	φ50cm以下の黒褐色土ブロックを含む。φ30cm以下の炭化物を少量含む。
		2	10YR5/6 黄褐色	シルト質砂	黄褐色土を含む。
	P2	1	10YR5/1 紫褐色	シルト質砂	柱痕跡、褐色土を含む。φ30cm以下の赤褐色土ブロック、φ50cm以下の炭化物を少量含む。
		2	10YR4/4 褐色	シルト質砂	φ50cm以下の黒褐色土ブロック、φ30cm以下の炭化物を少量含む。

第28図 SA1~5柱穴列

SA5柱穴列 (第28図、図版4)

E地区G3グリッドに位置する。確認された柱間は2間で、長さは4.14mである。西側の調査区外へ続く掘立柱建物跡の一部の可能性がある。柱穴の平面形は円形で、大きさは25~33cm、深さは23~33cmである。柱痕跡を確認できたのはP3で、柱穴跡の直径は13cmである。方向はN-16°Eである。遺物は出土しなかった。

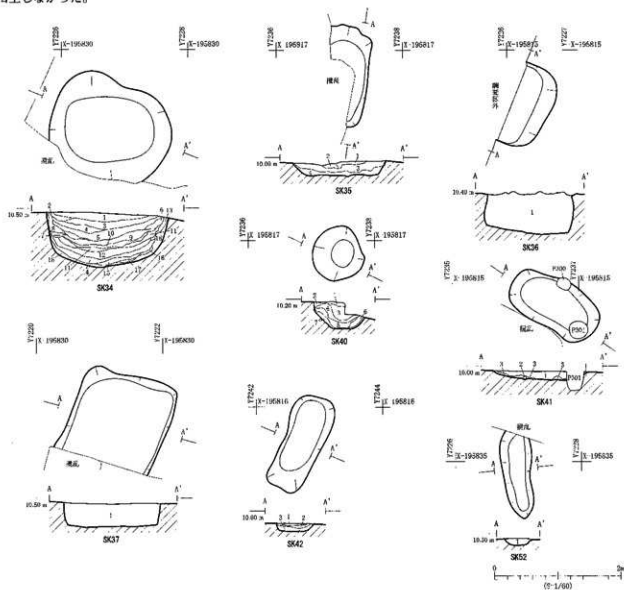
(2) 土坑

SK34土坑 (第29・30図、図版4・8)

E地区H4グリッドに位置する。南側の一部分が攪乱により失われている。平面形は不整形円形と推定でき、検出された規模は長軸1.98m、短軸1.53mである。断面形は船底形で、深さは87cmである。堆積土は黒褐色が主体で、18層に分けられる。遺物は土部器や須恵器の小片、石器が出土した。これらのうち、砥石1点を図化した(第30図1)。1は砥石である。上面の一部は欠損しているが、平面形は楕円形と考えられる。上面は平滑で研いだ痕跡が見られ、中央が窪む。

SK35土坑 (第29図、図版4)

E地区E6グリッドに位置する。西南側は攪乱により失われている。平面形は不整の隅丸方形と推定でき、規模は長軸1.46m以上、短軸0.61mである。断面形は隅丸の逆台形で、深さは26cmである。堆積土は4層に分けられる。遺物は出土しなかった。



第29図 土坑 (平成22年度Ⅳe層上面)

平成22年度 上地発掘土検出表

遺構	層位	上 色	土 性	特 徴
SK31	1	10YR3/2 黒褐色	シルト	φ5cm以下の黒褐色土ブロック、φ20cm以下の黄褐色土ブロック、φ3cm以下の暗赤褐色土ブロックを含む。φ5cm以下の灰化物を少量含む。
	2	10YR3/2 黒褐色	シルト	灰褐色土を含む。φ3cm以下の暗赤褐色土ブロックを少量含む。
	3	10YR3/2 黒褐色	シルト	φ10cm以下の灰褐色土ブロック、φ3cm以下の暗赤褐色土ブロックを含む。φ10cm以下の黒褐色土ブロックを少量含む。
	4	10YR3/1 黒褐色	シルト	φ10cm以下の黒褐色土ブロック、φ5cm以下の暗赤褐色土ブロックを含む。φ3cm以下の暗赤褐色土ブロックを含む。φ5cm以下の暗赤褐色土ブロックを少量含む。
	5	10YR3/1 黒褐色	シルト	黒褐色土を含む。φ5cm以下の暗赤褐色土ブロックを含む。φ20cm以下の暗赤褐色土ブロック、φ3cm以下の灰化物を少量含む。
	6	10YR3/1 黒褐色	シルト	黒褐色土を含む。φ3cm以下の暗赤褐色土ブロック、φ5cm以下の暗赤褐色土ブロック、φ3cm以下の暗赤褐色土ブロックを少量含む。φ3cm以下の灰化物を少量含む。
	7	10YR3/1 黒褐色	シルト	黒褐色土を含む。φ5cm以下の暗赤褐色土ブロックを含む。
	8	10YR3/2 に近い黄褐色	シルト	黒褐色土を含む。灰褐色土を少量含む。
	9	10YR3/2 黒褐色	シルト	暗褐色土を含む。φ3cm以下の暗褐色土ブロックを多量に含む。φ3cm以下の暗褐色土ブロック、φ10cm以下の暗褐色土ブロックを含む。φ5cm以下の灰化物を少量含む。
	10	10YR3/1 黒褐色	シルト	φ10cm以下の黒褐色土ブロックを多量に含む。φ3cm以下の暗赤褐色土ブロック、φ3cm以下の暗赤褐色土ブロックを少量含む。φ5cm以下の灰化物を少量含む。
	11	10YR3/2 黒褐色	シルト	黒褐色土を含む。φ5cm以下の暗赤褐色土ブロックを含む。φ3cm以下の暗赤褐色土ブロックを多量に含む。φ3cm以下の灰化物を少量含む。
	12	10YR3/2 黒褐色	シルト	黒褐色土を含む。φ5cm以下の暗赤褐色土を少量含む。φ5cm以下の暗褐色土ブロックを少量含む。φ10cm以下の灰化物を少量含む。
	13	10YR3/4 に近い黄褐色	シルト質砂	φ10cm以下の暗褐色土ブロックを含む。
14	2.5Y4/1 灰褐色	シルト	暗赤褐色土、暗褐色土を含む。φ3cm以下の暗褐色土ブロック、φ3cm以下の暗褐色土ブロックを少量含む。	
15	10YR3/4 に近い黄褐色	シルト質砂	暗赤褐色土を含む。φ10cm以下の暗褐色土ブロックを多量に含む。	
16	10YR3/6 黄褐色	シルト質砂	暗赤褐色土を含む。φ5cm以下の暗褐色土ブロックを少量含む。	
17	10YR3/2 黒褐色	シルト	φ5cm以下の暗赤褐色土を少量含む。	
18	10YR3/6 黄褐色	シルト質砂	暗赤褐色土を含む。φ2cm以下の暗褐色土ブロックを含む。	
SK35	1	2.5Y2/1 黒褐色	シルト質砂	暗褐色土を含む。φ2cm以下の暗褐色土ブロックを含む。
	2	10YR4/4 褐色	シルト質砂	暗赤褐色土を含む。φ2cm以下の暗褐色土ブロックを含む。
	3	10YR4/2 灰褐色	シルト質砂	φ5cm以下の暗褐色土ブロック、φ2cm以下の暗褐色土ブロックを含む。
	4	2.5Y2/1 黒褐色	シルト質砂	暗褐色土を含む。φ3cm以下の暗褐色土ブロックを含む。φ10cm以下の暗褐色土ブロックを少量含む。
SK36	1	10YR4/4 褐色	シルト質砂	φ10-20cm程度の暗褐色土ブロックを含む。
SK37	1	10YR3/4 暗褐色	粘土質シルト	暗褐色土を含む。φ20cm以下の暗褐色土ブロック、φ2-3cm程度の暗褐色土ブロック、灰化物を少量含む。φ5cm以下の暗赤褐色土を含む。φ5cm以下の暗褐色土ブロック、φ3-10cm程度の暗褐色土ブロックを少量含む。φ3cm以下の灰化物を少量含む。
SK40	1	2.5Y2/2 灰褐色	シルト	φ5-10cm程度の暗褐色土ブロック、φ5cm程度の暗褐色土ブロックを少量含む。
	2	2.5Y6/3 に近い黄色	シルト質砂	φ5-10cm程度の暗褐色土ブロック、φ5-10cm程度の暗褐色土ブロックを少量含む。φ10cm以下の暗赤褐色土を含む。
	3	10YR3/2 黒褐色	粘土質シルト	暗褐色土、暗褐色土を含む。暗赤褐色土を含む。φ10cm程度の暗褐色土ブロック、φ3-10cm程度の暗褐色土を少量含む。
	4	2.5Y4/1 黄褐色	粘土質シルト	暗褐色土、暗褐色土を含む。
	5	2.5Y4/2 暗赤褐色	シルト質砂	暗赤褐色土を含む。φ10cm程度の暗褐色土ブロック、φ3-10cm程度の暗褐色土を少量含む。
	6	10YR4/2 灰褐色	シルト質砂	暗赤褐色土を含む。
	7	10YR3/3 に近い黄褐色	シルト質砂	灰褐色土を含む。φ5cm以下の暗褐色土ブロックを少量含む。
SK41	1	2.5Y2/1 黄褐色	シルト質砂	暗褐色土を含む。
	2	2.5Y4/1 黄褐色	粘土質シルト	φ3cm程度の暗褐色土ブロックを少量含む。
	3	10YR4/4 褐色	シルト質砂	φ10cm以下の暗褐色土ブロックを含む。
SK42	1	2.5Y2/1 黄褐色	粘土質シルト	暗赤褐色土を含む。φ3cm程度の暗褐色土ブロックを少量含む。
	2	10YR4/3 に近い黄褐色	シルト質砂	暗褐色土を含む。
SK52	3	10YR4/6 褐色	シルト質砂	φ5cm程度の暗赤褐色土ブロック、φ3cm程度の暗褐色土ブロックを少量含む。
	1	10YR4/4 褐色	シルト質砂	φ10-20cm程度の暗褐色土ブロックを少量含む。

SK36土坑 (第29図)

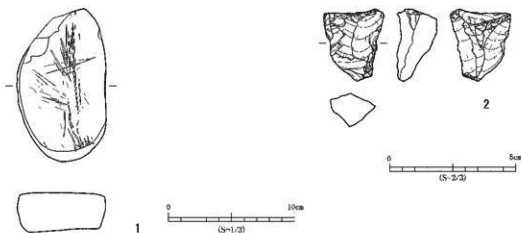
E地区E4グリッドに位置する。西側は調査区外へ続く。平面形は隅丸方形と推定でき、規模は長軸1.34m、短軸0.58m以上である。断面形は箱形で、深さは64cmである。堆積土は褐色シルト質砂の単層である。遺物は出土しなかった。

SK37土坑 (第29・30図、図版8)

E地区H3グリッドに位置する。南側の一部が擾乱により失われている。平面形は方形で、規模は長軸1.54m以上、短軸1.44mである。断面形は箱形で、深さは47cmである。堆積土は暗褐色粘土質シルトの単層である。遺物は土師器片や石器剥片が出上った。これらうち石器剥片1点を図化した(第30図2)。2は石核である。石材は黒曜石で、狭雑物ややが含まれている。

SK40土坑 (第29図、図版4)

E地区H5グリッドに位置する。平面形は不整形形で、規模は長軸0.88m、短軸0.77mである。断面形はU字形で、深さは46cmである。堆積土は7層に分けられる。遺物は土師器片が出上った。



図版 番号	発見 番号	遺構	層位	種類		形状 (cm)			重量 (g)	石材	備考	写真 掲載
				器種	用途	長さ	幅	厚さ				
1	K-009	SK34	堆積上	石製品	砥石	12.2	7.0	4.5	426.6	泥岩	仕上げ砥	8-12
2	K-025	SK37	堆積上	打製石器	石鏃	2.9	2.4	1.6	6.9	燧石		8-13

第30図 土坑（平成22年度Ⅱe層上面）出土遺物

SK41土坑（第29図、図版4）

E地区D6、E6グリッドに位置する。南側の一部分が擾乱に接している。重複するP300とP301の方が新しい。平面形は不正楕円形で、規模は長軸1.49m、短軸0.81mである。断面形は皿形で、深さは16cmである。堆積土は黄灰色シルト質砂が主体で、3層に分けられる。遺物は土師器片が出土した。

SK42土坑（第29図、図版4）

E地区E7グリッドに位置する。平面形は不整隅丸方形で、規模は長軸1.55m、短軸0.6mである。断面形は皿形で、深さは12cmである。堆積土は3層に分けられる。遺物は出土しなかった。

SK52土坑（第29図）

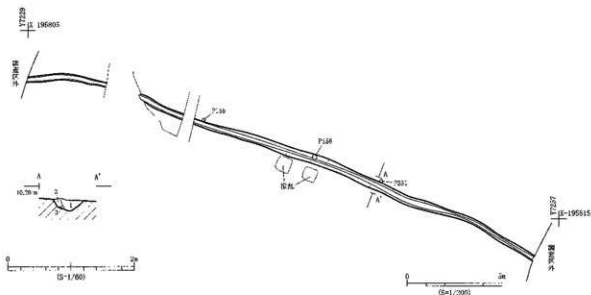
E地区H4、I4グリッドに位置する。北端は擾乱により失われている。平面形は不整楕円形で、規模は長軸1.4m、短軸0.4mである。断面形はU字形で、深さは10cmである。堆積土は褐色砂の単層である。遺物は出土しなかった。

(3) 溝跡

SD20溝跡（第31・32図）

E地区C4～6、D6～9、E9・10グリッドに位置する。重複するSD23より新しい。規模は、長さ28m、上端幅50cm、下端幅25cmである。調査区の西側でやや南に湾曲するが、中央部から東側にかけての方向は概ねN-68°-Wである。断面形はU字形で、深さは40cmである。底面は、部分的に凹凸はあるものの、若干ではあるが東に向かって傾斜する。堆積土は褐色シルト砂を主体とし、3層に分けられる。

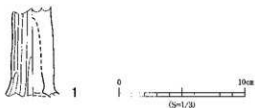
遺物は土師器片が出土した。第32図1は土師器高坏の脚部である。外面は幅の広い縦方向のミガキが施され、内面のナデの上部はしほり痕がある。裾は屈曲して開くと考えられる。



SD20溝跡 断面十位記表

遺構	層位	土色	土性	特徴
SD20	1	7.5YR5/1 褐色	シルト質砂	灰黄褐色土を含む。φ3mm以下の褐色土ブロックを含む。φ2mm以下の褐色土ブロック、φ2mm程度の炭化物を少量含む。
	2	10YH4/4 緑色	シルト質砂	褐色土を含む。φ2mm以下の炭化物を少量含む。
	3	7.5YR5/1 褐色	シルト質砂	灰黄褐色土を含む。φ3mm以下の褐色土ブロックを含む。

第31図 SD20溝跡



図表番号	区画番号	遺構	層位	種類	器種	部位	位置 (cm)		外周調整	内面調整	備考	写真掲載
							口径	底径				
1	C-038	SD20	堆積土	土器器	高坏	脚		(7.3)	脚：ヘラミガキ	脚：L179 灰 脚上端：ユビオサエホナテ		-

第32図 SD20溝跡出土遺物

3. V層上面検出遺構と出土遺物

(1) 土坑

SK46土坑 (第34図)

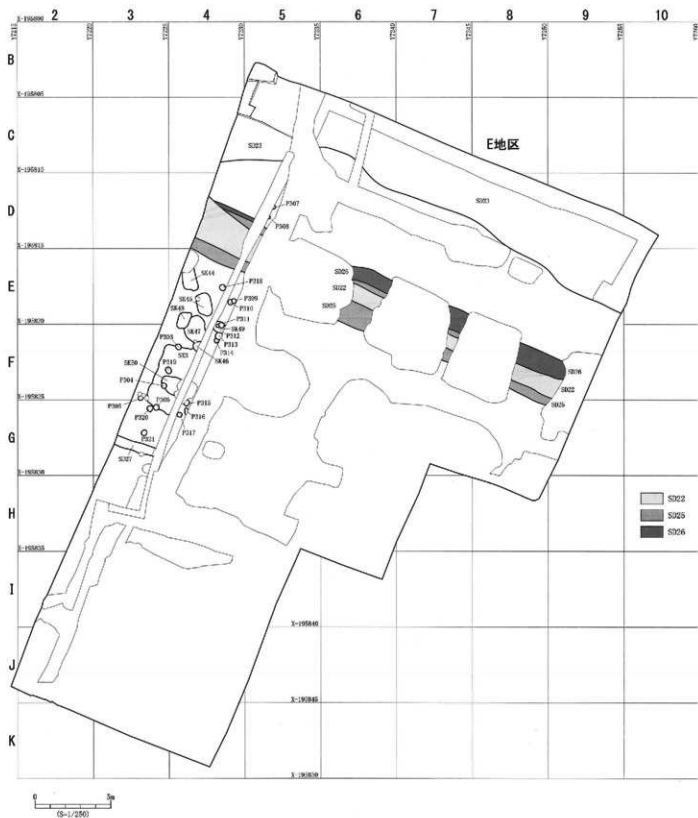
E地区F4グリッドに位置する。重複するSK47とSX3より新しい。平面形は円形で、規模は長軸0.68m、短軸0.38mである。断面形は段のある逆台形で、深さは18cmである。堆積土は2層に分けられる。遺物は出土しなかった。

SK47土坑 (第34図)

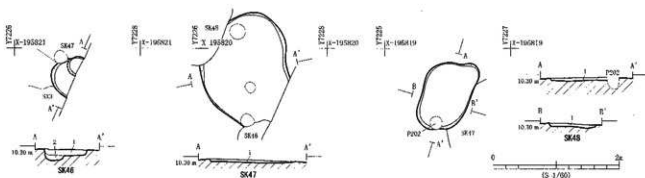
E地区E4、F4グリッドに位置する。重複するSK46とSK48より古い。平面形は楕円形で、規模は長軸1.72m、短軸1.34mである。断面形は皿形で、深さは4cmである。堆積土は褐色シルト質砂で単層である。遺物は出土しなかった。

SK48土坑 (第34図)

E地区E4、F4グリッドに位置する。重複するSK47より新しい。平面形は不整形円形で、規模は長軸1.08m、短軸0.74mである。断面形は皿形で、深さは6cmである。堆積土は褐色シルト質砂で単層である。遺物は出土しなかった。



第33図 V層上面検出遺構配置図 (平成22年度調査区)



平成22年度 土坑発掘上注記表

遺構	層位	土色	土性	特徴
SK46	1	10YR5/3 濃い黄褐色	シルト質砂	黄褐色土を含む。φ3mm以下の明赤褐色土ブロック含む。
	2	10YR4/4 褐色	シルト質砂	φ3mm以下の明赤褐色土ブロック少量含む。
SK47	1	10YR4/4 褐色	シルト質砂	φ3mm以下の黄褐色土ブロック、φ3mm以下暗赤褐色土ブロックを含む。
SK48	1	10YR4/6 褐色	シルト質砂	明赤褐色土を含む。φ3mm以下の暗赤褐色土ブロックを少量含む。

第34図 土坑（平成22年度V層上面）

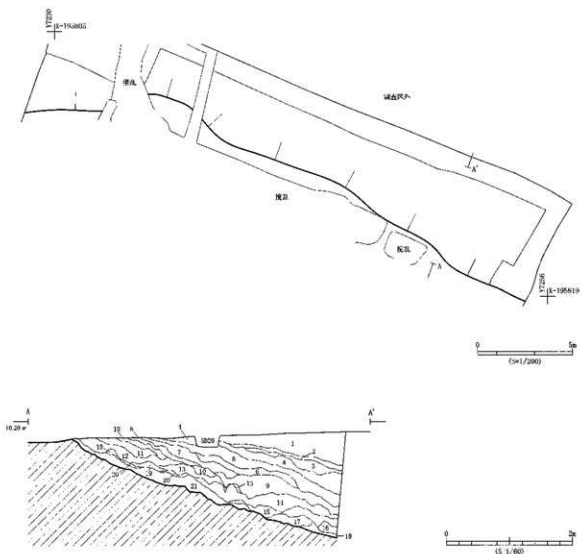
(2) 溝跡

SD23溝跡（第35・36岡、岡版5・9・10）

E地区C4-8、D6-10、E8-10グリッドに位置する。東西両端と北の肩は調査区外へ続く。検出された規模は、長さ28.5m、残存していた上端幅は4.3mである。底面もしくは壁面が緩やかな傾斜ながら直線状に傾斜するため、断面形は逆三角形もしくは逆台形と推定できる。深さは1.65mで、底面は西に向かって傾斜する。

堆積土は21層に分けられる。中・下層の炭化物を含む黒色土層とシルト層の堆積状況からは、幅を狭めながら自然堆積していった様子うかがえる。

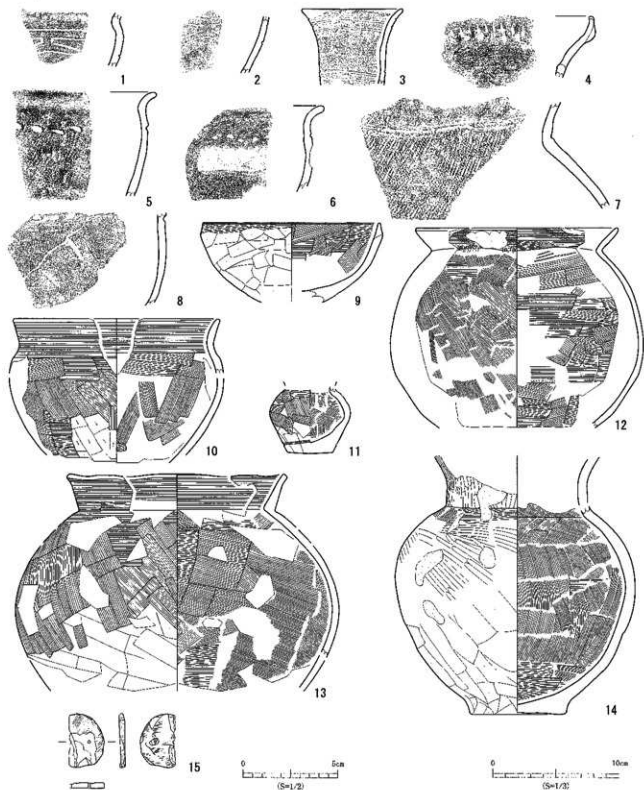
遺物は弥生土器片、土師器片、石製模造品などが出土した。これらのうち、弥生土器の鉢1点、高坏1点、壺2点、甕4点、土師器の坏1点、壺3点、甕2点、石製模造品1点を図化した（第36図）。1は高坏の体部に複線変形工字文（注）が施されている。2は鉢で、複線変形工字文が施されている。3、4は壺の口縁部である。3の頸部は直立気味だが、11縁部が外反して開き、口縁部と頸部に二条の沈線文が廻る。4は口縁端部が屈曲して直立し、外面の口縁部下半部には交互に刺突が施されている。5、6は甕である。5は外反している口縁端部のヨコナデの下に列点刺突文が廻り、体部にはLR縄文が施されている。6は口縁部に列点刺突文が廻り、鬚承文が施されている。7は甕と考えられる。頸部から体部にかけて屈曲し、外面にはLRの縄文が施され、屈曲部に縄文原体の圧痕がある。8は甕で、列点刺突文と植物茎同脈文が施されている。9-14は土師器であり、9は坏で、器壁は厚めで、体部は丸味を帯びており、口縁端部は先細りになっている。外面はヘラケズリ、内面はヘラナデ調整がなされている。10は甕で体部はヘラナデとヘラケズリで調整されている。11は小型の甕で、外面の下部は沈線が廻り、ヘラケズリで底面が整形され、内面はユビナデで整形されている。12、13は甕で、器壁は薄く、口縁部は「く」の字状に外反する。12の体部は外面がハケメ、内面はヘラナデ調整されており、器壁が薄い。13の体部はヘラナデとヘラケズリで調整されている。14は甕である。明瞭ではないが肩があり、頸部が直立気味に立ち上がる。同時に出土した甕よりやや厚手で、胎土は密である。肩部にミガキが施されている。15は鉢を模った粘板岩製の石製模造品である。1/2弱が欠損しているが、2ヶ所の穿孔を確認できた。



SD23溝跡 地質十注記表

遺構	層位	土色	土性	特徴
SD23	1	10YR6/2 灰黄褐色	粘土質シルト	φ10mm以下の灰黄色土ブロックを多く含む。φ3mm以下の明赤褐色土ブロック、φ3mm以下の暗赤褐色土ブロックを含む。φ3mm以下の灰褐色土ブロックを少量含む。
	2	10YR4/2 灰黄褐色	粘土質シルト	深灰色土を含む。φ2mm以下の灰褐色土ブロックを余み、φ3mm以下の明赤褐色土ブロック、φ3mm以下の暗赤褐色土ブロックを少量含む。
	3	10YR6/3 に近い黄褐色	粘土質シルト	φ10mm以下の暗灰色土ブロック、φ5mm以下の明黄褐色土ブロックを含む。φ5mm以下の灰褐色土ブロック、φ3mm以下の暗赤褐色土ブロックを少量含む。
	4	10YR6/2 灰黄褐色	粘土質シルト	深灰色土を含む。φ5mm以下の黄褐色土ブロック、φ5mm以下の暗褐色土ブロックを含む。φ5mm以下の赤褐色土ブロック、φ3mm以下の灰褐色土ブロックを少量含む。
	5	10YR5/3 に近い黄褐色	粘土質シルト	黄褐色土、φ10mm以下の灰褐色土ブロックを含む。φ5mm以下の明黄褐色土ブロック、φ3mm程度の赤褐色土ブロックを少量含む。
	6	2.5Y6/1 黄灰色	粘土質シルト	に白い黄褐色土、明赤褐色土を含む。φ5mm以下の灰褐色土ブロックを少量含む。
	7	2.5Y5/2 暗灰色	粘土質シルト	灰黄色土を含む。φ10mm以下の暗褐色土ブロック、φ3mm以下の明黄褐色土ブロックを含む。φ5mm以下の明赤褐色土ブロックを少量含む。
	8	10YR4/2 灰黄褐色	シルト質砂	灰黄色土を含む。φ5mm以下の黄褐色土ブロック、φ3mm以下の明赤褐色土ブロックを少量含む。
	9	10YR4/1 暗灰色	粘土質シルト	灰黄色土を含む。に白い黄褐色土多量を含む。φ10mm以下の暗赤褐色土ブロックを少量含む。
	10	2.5Y7/2 灰青色	シルト	灰白色土を含む。黄褐色砂、明赤褐色土を含む。φ3mm以下のに白い黄褐色土ブロック、φ5mm程度の黄褐色土ブロックを少量含む。
	11	10YR4/2 灰黄褐色	シルト質砂	黄褐色土を含む。φ2mm以下の灰赤褐色土ブロック、φ10mm以下の灰黄褐色土ブロック、φ10mm以下の灰白色土を含む。φ2mm程度の灰赤褐色土ブロック、φ10mm以下の灰黄褐色土ブロック、φ10mm以下の炭化物を少量含む。上部砂を含む。
	12	2.5Y4/1 黄灰色	粘土質シルト	φ10mm以下の黄灰色土ブロック、φ10mm以下の暗灰色土ブロック、φ10mm以下の暗赤褐色土ブロックを少量含む。
	13	10YR4/2 灰黄褐色	シルト質砂	黄褐色土を含む。φ2mm程度の灰赤褐色土ブロック、φ10mm以下の灰黄褐色土ブロック、φ10mm以下の炭化物を少量含む。
	14	10YR6/2 灰黄褐色	粘土質砂	灰黄色土を含む。に白い黄褐色土を含む。φ3mm以下の明赤褐色土ブロック、φ10mm以下の炭化物を少量含む。
	15	2.5Y4/2 暗灰色	粘土質シルト	灰黄色土を含む。φ10mm以下の黄褐色土ブロック、φ5mm程度の炭化物を含む。
	16	2.5Y5/2 暗灰色	粘土質シルト	φ20mm以下の明赤褐色土ブロックを少量含む。
	17	7.5YR5/4 に近い褐色	シルト	φ10mm以下の灰褐色土ブロック、φ2mm以下の灰赤褐色土ブロックを多く含む。黄褐色土を含む。
	18	5Y5/1 灰色	粘土質シルト	灰白色土を含む。φ10mm程度の赤褐色土ブロックを少量含む。
	19	10YR5/1 に近い黄褐色	粘土質シルト	φ5mm以下の灰黄色土ブロック、φ2mm以下の灰赤褐色土ブロックを含む。
	20	10YR5/2 灰黄褐色	粘土質シルト	灰黄色土を含む。φ10mm以下の黄褐色土ブロックを含む。φ3mm程度の炭化物を少量含む。
	21	7.5Y5/3 に近い黄褐色	粘土質シルト	φ5mm以下の灰黄褐色土ブロック、φ5mm以下の黄褐色土ブロックを含む。

第35図 SD23溝跡



図版番号	盛刻番号	遺構	層位	視切	形状	部位	外装調査		内面調査	備考	写真 図版	
							体	文様				
1	B-006	SD25	層上土	断面土部	取柄	体	縦線堂彩下文字、横線縄文				9-9	
2	B-006	SD25	層上土	断面土部	取柄	体	縦線堂彩下文字				9-10	
3	B-002	SD23	層上土	断面土部	取柄	口縁～胴	植物葉形短文一帯刷				山腹のひずみが大い	9-11
4	B-001	SD23	層上土	断面土部	取柄	口縁～体上半	口縁部上半部堂彩刷、胴部ナシ				肩合口縁	9-12
5	B-004	SD23	層上土	断面土部	取柄	口縁～体上半	口縁部ヨコナシ、胴点刷突文、L&R縄文					9-14
6	B-003	SD23	層上土	断面土部	取柄	口縁～体上半	口縁部ヨコナシ、胴点刷突文、L&R縄文					9-13
7	B-011	SD23	層上土	断面土部	取柄	口縁～体	口縁～体	口縁部ヨコナシ、胴点刷突文、L&R縄文			体部ミナシ	9-16
8	B-008	SD23	層上土	断面土部	取柄	口縁～体	口縁ナシ、胴点刷突文、L&R縄文					9-15

第36図 SD23溝跡出土遺物

図版 番号	登録 番号	遺構	層位	種類	形状	部位	法量 (m)		高さ	外周調整		内周調整		備考	写真 図版
							口径	底径		口縁	底	口縁	底		
9	C-047	SD23	厚積土	土師器	罎	口縁-体	(14.4)	-	(6.3)	口縁:ヨコナデ→ヘラケズリ 体:ヘラケズリ	口縁:体:ヘラナデ	体部ノ底磨耗		9-18	
10	C-054	SD23	厚積土	土師器	罎	口縁-体	16.4	-	(11.3)	口縁:ヨコナデ 体:ヘラケズリ→ヘラナデ	口縁:ヨコナデ 体:ヘラナデ			10-3	
11	C-051	SD23	1層	土師器	山	胴-底	(4.0)	(3.6)	(5.3)	体ノ底:ヘラナデ 体ノ底→ヘラケズリ	体→底:ヘラナデ			9-17	
12	C-050	SD23	厚積土	土師器	甕	口縁-体	(16.0)	-	(15.8)	口縁:ハケメ→ヨコナデ 体:ハケメ	口縁:ハケメ→ヨコナデ 底:ハケメ、体:ヘラナデ			10-2	
13	C-055	SD23	厚積土	土師器	甕	口縁-体	(17.4)	-	(17.2)	口縁:ヨコナデ 底:ヘラナデ 体:ヘラナデ→ヘラケズリ	口縁:ヨコナデ 底:ヘラナデ→ヨコナデ 体:ヘラナデ			10-4	
14	C-049	SD23	厚積土	土師器	甕	口縁-底	-	7.4	(20.5)	口縁:ヘラミガキ 体上:ヘラミガキ 体下:ヘラケズリ	底:ヘラナデ			10-1	

図版 番号	登録 番号	遺構	層位	種類	器種	法量 (cm)		高さ (g)	石材	備考	写真 図版
						長さ	幅				
15	K-008	SD23	厚積土	石製焼土器	甕形	2.8	(1.8)	0.3	粘質	半分は欠損。2ヶ所は欠孔。	10-5

SD22溝跡 (第37・38図、図版5・9)

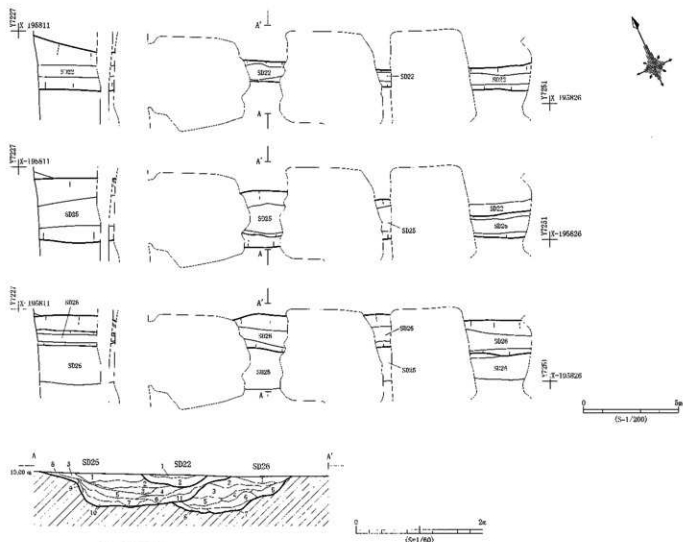
E地区D4・5、E4～6、F7～9グリッドに位置する。調査区内では掘乱により分断されており、東西両端とも調査区外へ続く。重複するSD25・26より新しい。規模は、長さ28m、上端幅0.9～3.0mで、下端幅は0.5～0.9mで、N-65°-Wの方向に直線的に延びる。断面形は浅い皿形で、深さは20cmである。底面は東に向かって傾斜する。堆積土は2層に分けられる。

遺物は土師器と土製品が出土した。これらのうち土師器の坏1点、鉢2点、高坏1点、甕2点、甌1点、土玉1点を図化した(第38図)。1は坏である。口縁部の内面は全面的にヘラミガキがされている。口縁部部の下位が外反する。2は高坏である。裾部は緩やかに開く。坏部は内外面ともヘラナデ調整されている。3は鉢である。体部はやや丸みを帯びて、口縁部は外反して上方に開く。体部はヘラケズリとヘラナデで調整されている。4は鉢である。底部は3に比べて厚く、体部は直線的に立ち上がっている。外面はヘラケズリ、内面はヘラナデとナデにより調整されている。5は土玉である。ユビオサエで整形されている。6は甕の口縁部である。口縁部のヨコナデ以前にユビオサエで整形していたことがわかる。広口で頸部が厚い。7は長胴の甕もしくは甌である。外面はヘラケズリ、内面はヘラナデ調整されている。8は無底式の甌である。体部に大きな欠損はあるが上端から下端までが残存していた。口縁部が開く。内面はヘラミガキも施されている。

SD25溝跡 (第37・39図、図版5・10)

E地区D4・5、E4～6、F6～9、G8・9グリッドに位置する。SD25は掘乱に壊されている箇所がある。東西両端とも調査区外へ続く。重複するSD22より古く、SD26より新しい。規模は、長さ26.3m、残存している上端幅は1.1～3.4m、下端幅は0.8～1.7mで、N-63°-Wの方向に延びる。断面形は逆台形で、岸に向かって立ち上がり、深さは55cmである。底面は東に向かって傾斜する。堆積土は11層に分けられ、自然堆積により埋没したと考えられる。

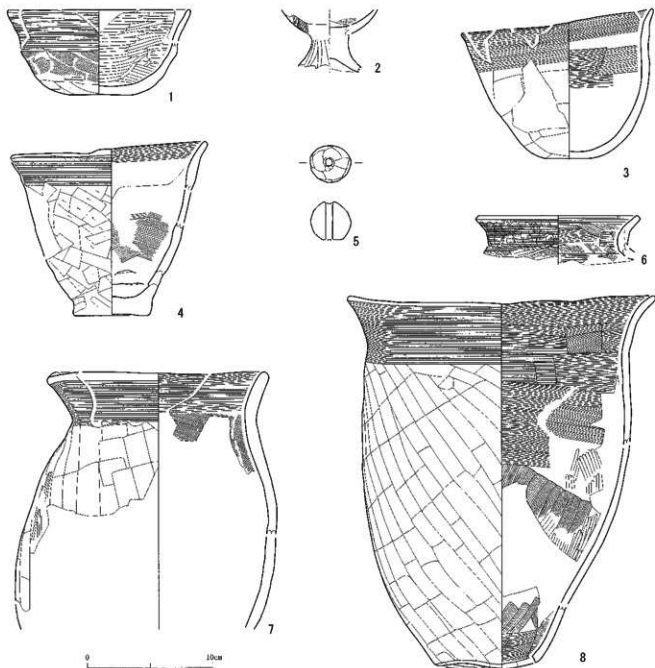
遺物は弥生土器、土師器片や土製品が出土した。これらのうち、弥生土器の高坏1点、土師器高坏1点、鉢1点、甌1点、土玉1点を図化した(第39図)。1は弥生土器高坏の口縁部部の可能性がある。外面には複雑変形工字文が、内面には平行沈線文が施されている。2は土師器高坏の脚部である。外面には幅の広いヘラミガキが施され、内面は指もしくは棒状工具で整形されている。3は鉢である。内外面ともにヨコナデとミガキで調整されている。口縁部は外反し、台状の底をもつ。前出のSD22から出土した鉢に比べて小型である。4は単孔式の甌である。前出のSD22から出土したC-042と調整は異なるが器形が似ている。大部分がヨコナデとヘラナデで調整されているが、下端部はヘラケズリ調整されている。5は土玉である。ユビナデで整形されている。



SD22・SD25・SD26編年 地質土性記表

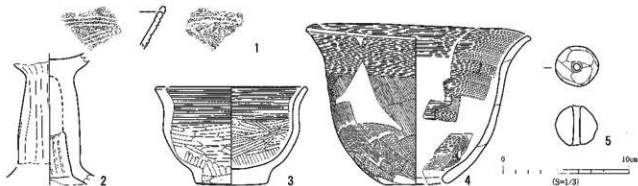
遺構	層位	土色	土性	特徴
SD22	1	19YR5/1 黄褐色	粘土質シルト	灰褐色土、φ3mm程度の赤褐色土ブロック、φ5mm以下の炭化物を少量含む。
	2	2.5Y5/1 灰褐色	シルト質砂	灰褐色土を含む。φ3mm程度の明黄褐色土ブロック、φ3mm以下の灰赤土ブロックを含む。φ3mm以下の灰褐色土ブロックを含む。φ5mm以下の炭化物を少量含む。
	1	2.5Y6/1 黄褐色	シルト	灰褐色土を含む。φ5mm程度の明黄褐色土ブロック、φ5mm以下の灰赤土ブロックを含む。φ5mm以下の炭化物を少量含む。
	2	2.5Y6/1 黄褐色	シルト	灰褐色土を含む。φ5mm以下の暗赤褐色土ブロックを多数に含む。φ3mm程度の明赤褐色土ブロックを含む。φ10mm以下の黄褐色土ブロック、φ3mm程度の炭化物を少量含む。
SD25	3	2.5Y6/2 灰褐色	粘土質シルト	灰褐色土を含む。φ5mm以下の暗赤褐色土ブロックを多数に含む。明黄褐色砂を含む。φ5mm以下の黄褐色土ブロックを少量含む。
	4	2.5Y6/1 黄褐色	シルト	黄褐色土を含む。φ5mm以下の暗赤褐色土ブロックを多数に含む。黄褐色砂を含む。
	5	2.5Y6/1 黄褐色	シルト	暗黄褐色土を含む。φ5mm以下の灰赤土ブロックを多数に含む。φ5mm以下の明黄褐色土ブロック、φ5mm以下の黄褐色土ブロックを少量含む。
	6	2.5Y6/1 黄褐色	シルト	暗黄褐色土を含む。φ5mm以下の灰赤土ブロックを多数に含む。φ5mm程度の黄褐色土ブロック、φ10mm以下の赤褐色土ブロックを少量含む。
	7	2.5Y6/1 黄褐色	シルト	暗黄褐色土を含む。φ5mm以下の灰赤土ブロックを多数に含む。φ5mm以下の黄褐色土ブロックを含む。φ3mm程度の明赤褐色土ブロック、φ3mm以下の炭化物を少量含む。
	8	2.5Y6/2 灰褐色	粘土質シルト	灰褐色土を含む。φ5mm以下の暗赤褐色土ブロックを含む。
	9	2.5Y4/1 黄褐色	粘土質シルト	暗黄褐色砂を含む。
	10	10YR5/3 に近い黄褐色	シルト質砂	灰褐色砂を含む。φ5mm以下の明黄褐色土ブロックを含む。φ10mm以下の暗黄褐色土ブロックを少量含む。灰褐色砂を含む。φ10mm以下の明黄褐色土ブロックを含む。φ3mm以下の灰褐色土ブロックを含む。φ3mm以下の明赤褐色土ブロックを少量含む。
	11	2.5Y6/2 暗黄褐色	粘土質シルト	暗黄褐色土を含む。φ5mm以下の暗赤褐色土ブロックを含む。φ3mm以下の暗赤褐色土ブロックを少量含む。
	1	2.5Y6/2 暗黄褐色	シルト	暗黄褐色土、黄褐色土を含む。φ3mm以下の灰赤土ブロック、φ3mm以下の赤褐色土ブロックを少量含む。
	2	2.5Y6/1 黄褐色	シルト	暗黄褐色砂を含む。φ3mm以下の暗赤褐色土ブロックを多数に含む。φ10mm以下の黄褐色土ブロック、φ3mm以下の暗赤褐色土ブロックを含む。φ3mm以下の暗赤褐色土ブロックを含む。
SD26	3	2.5Y6/1 黄褐色	シルト	灰褐色土を含む。φ5mm以下の暗赤褐色土ブロックを含む。φ3mm以下の暗赤褐色土ブロックを含む。φ5mm以下の黄褐色土ブロックを含む。φ3mm以下の炭化物を少量含む。
	4	7.5YR5/2 灰褐色	シルト質砂	暗黄褐色土を含む。灰褐色砂、φ5mm以下の黄褐色土ブロックを含む。φ3mm以下の灰赤土ブロック、φ5mm以下の炭化物を少量含む。
	5	2.5Y6/3 に近い黄褐色	シルト質砂	暗黄褐色土を含む。φ5mm以下の暗赤褐色土ブロックを含む。φ3mm以下の暗赤褐色土ブロック、φ5mm以下の炭化物を少量含む。
	6	7.5YR5/2 灰褐色	シルト質砂	暗黄褐色土を含む。φ5mm以下の暗赤褐色土ブロックを含む。φ3mm以下の暗赤褐色土ブロック、φ5mm以下の炭化物を少量含む。
	7	7.5YR5/2 に近い黄褐色	シルト質砂	暗黄褐色土を含む。φ10mm以下の黄褐色土ブロックを含む。φ5mm程度の暗褐色土ブロックを少量含む。灰褐色砂を含む。φ3mm以下の暗赤褐色土ブロックを含む。φ3mm以下の暗赤褐色土ブロックを少量含む。
	8	2.5Y6/2 灰褐色	シルト	灰褐色土を含む。φ5mm以下の暗赤褐色土ブロック、φ3mm以下の暗赤褐色土ブロックを少量含む。

第37図 SD22・25・26溝跡



図版番号	登録番号	遺構	層位	種類	器種	形状	口径	器高 (cm)			外周胴径		内周胴径		備考	写真図版
								口徑	胴高	器高	口径	胴径	口径	胴径		
1	C-044	SD22	堆積土	土師器	杯	L形~底	(13.8)	(4.7)	(6.7)	口縁:ヨコナデ 体:ユビナデ, 底:ヘラケズリ	L径~底:ヘラミガキ			92		
2	C-041	SD22	堆積土	土師器	高杯	円筒~脚	(7.6)	-	(5.0)	口縁:ヘラケズリ 胴:ヘラケズリ 体~底:ヨコナデ 体:ヘラケズリ	口縁:ヘラケズリ 胴:ヨコナデ 体:ヘラケズリ 体~底:ヘラケズリ	内周胴~底筋純		91		
3	C-042	SU22	堆積土	土師器	鉢	円筒~底	15.2	1.0	11.9	口縁~胴:ヨコナデ 体~底:ヘラケズリ	L径:ヨコナデ 体:ヘラケズリ 体~底:ヘラケズリ			97		
4	C-045	SD22	堆積土	土師器	鉢	L形~底	(15.6)	6.0	13.6	口縁~胴:ヨコナデ 体:ヘラケズリ	L径:ヨコナデ 体:ヘラケズリ 体~底:ユビナデ			98		
6	C-040	SD22	堆積土	土師器	甕	口縁~ 脚上直	(13.0)	-	(3.9)	口縁:ヨコナデ 体:ヘラケズリ	口縁:ヨコナデ 体:ヘラケズリ 体~底:ヘラケズリ			94		
7	C-043	SU22	堆積土	土師器	甕or甔	円筒~体	17.5	-	(20.4)	L径~胴:ヨコナデ 体:ヘラケズリ	L径:ヨコナデ 胴:ヘラケズリ 体:ヘラケズリ			95		
8	C-046	SD22	堆積土	土師器	甔	口縁~底	24.4	7.7 (孔直)	29.7	口縁~胴:ヨコナデ 体~底:ヘラケズリ	L径:ヨコナデ 体:ヘラケズリ 体~底:ヘラケズリ			96		
図版 番号	登録 番号	遺構	層位	種類	器種	形状	器高(cm)			外周胴径		内周胴径		備考	写真 図版	
3	P-001	SD22	堆積土	土師器	土器		口径	胴高	器高	口径		胴径			93	

第38図 SD22溝跡出土遺物

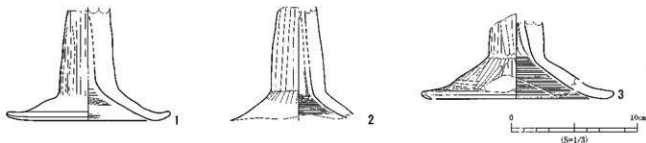


図版番号	図録番号	遺構	層位	種類	器種	部位	外周調整			内面調整	備考	写尺図版	
							幅	径	厚				
1	B-007	SD25	上層	須恵土器	鉢or高杯	口縁～縁上端	縦線彫り工字文			平行流線文、ミギキ	口縁突起あり	10-9	
図版番号	図録番号	遺構	層位	種類	器種	部位	寸法 (cm)			外周調整	内面調整	備考	写尺図版
							口径	底径	器高				
2	C-071	SE25	下層	土師器	高杯	杯底～脚	-	-	(10.4)	脚：幅の広いヘラミガキか、踵下平：ナダ（用もしくは、縁状下高）、踵：ヨコナダ	内面調整あり	-	
3	C-072	SD25	中層上	土師器	鉢	口縁～底	(12.0)	(5.6)	7.8	口縁～体上端：ヨコナダ 踵：ヘラミガキ、踵：ヘラミガキ	口縁～底：ヨコナダ 踵～体上端：ヨコナダ		10-6
4	C-070	SD25	上層	土師器	瓶	口縁～底	17.7	4.2 (底径)	(12.8)	口縁～体上端：ヨコナダ 踵：ヘラミガキ、踵：ヘラミガキ	口縁～底：ヨコナダ 踵～体上端：ヨコナダ		10-7
図版番号	図録番号	遺構	層位	種類	器種	長さ	法線(幅)	厚	高さ	外周調整	内面調整	備考	写尺図版
5	F-002	SD25	中層下	土師器	土瓦	3.4	3.2	3.1	32.0	エビヤキ文	-		10-8

第39図 SD25溝跡出土遺物

SD26溝跡 (第37・40回、図版5・10)

E地区D4・5、E6・7、F7～9グリッドに位置する。SD26は攪乱に壊されている筒所がある。東西両端とも調査区外へ続く。重複するSD22・25より古い。規模は、長さ26.2m、残存していた上端幅は1.4～1.9m、下端幅は0.6～1.1mで、N-65°-Wの方向に延びる。断面形は皿形で、深さは65cmである。堆積土は8層に分けられ、底面は東に向かって傾斜する。遺物は土師器片と須恵器片が出土した。これらのうち土師器高坏3点を図化した(第40図)。1～3の外内はヘラミガキ、内面はヘラナダで調整されており、裾部が屈曲して外反する。須恵器は小片だけが最下層から出土した。



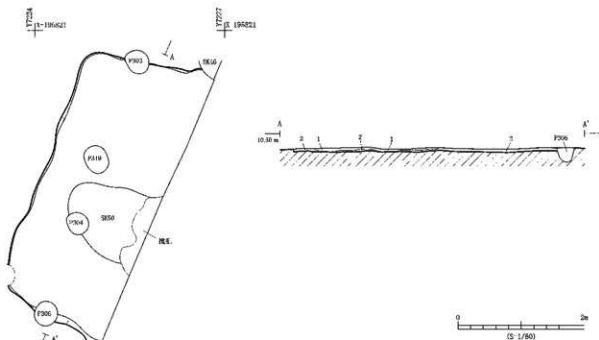
図版番号	図録番号	遺構	層位	種類	器種	部位	寸法 (cm)			外周調整	内面調整	備考	写尺図版
							口径	底径	器高				
1	C-073	SD26	上層	土師器	高坏	脚	-	(12.2)	(8.9)	脚：ヘラミガキ	踵：しほり底 踵：ヘラナダ	外周調整あり	10-11
2	C-074	SD26	上層	土師器	高坏	脚	-	-	(9.6)	脚：ヘラミガキ	踵：しほり底 踵：ヨコナダ～ヘラナダ	外周調整あり	10-12
3	C-076	SD26	下層	土師器	高坏	脚	-	(13.0)	(6.7)	脚：ヘラミガキ	踵：しほり底、踵上平：ヘラナダ 踵下平：ヨコナダ		10-10

第40図 SD26溝跡出土遺物

(3) 性格不明遺構

SX3性格不明遺構 (第41回)

E地区F3・4、G3・4グリッドに位置する。東側は攪乱により失われている。重複するSK16より古く、SK50より新しい。平面形は方形と推定され、西側の一部を検出した。規模は長軸4.1m、短軸1.93mである。断面形は箱形で、底面は多少の起伏はあるがおおよそ平坦である。深さは5cmである。堆積土は2層に分けられる。遺物は出土しなかった。



SX3性格不明遺構 遺構上地記表

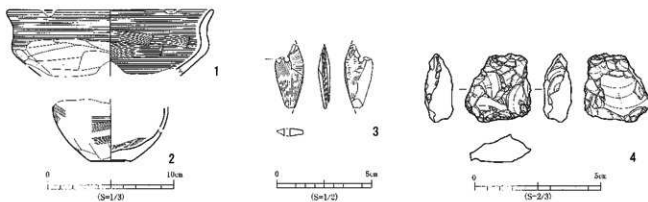
遺構	層位	土色	土質	特徴
SX3	1	10YR4/3	にじい黄褐色	シルト質砂
	2	10YR5/3	にじい黄褐色	シルト質砂

φ5m以下の穴は褐色土ブロックをのみ、φ5m程の穴は赤土ブロックを少量含む。
 φ5m以下の穴は褐色土ブロックを含む。

第41図 SX3性格不明遺構

(4) 遺構外出土遺物 (第42図、図版10)

1は坏である。外面はヘラケズリ、内面はヘラナデで調整されている。2は壺である。外面はハケメとヘラナデとヘラケズリ、内面はヘラナデで調整されている。3は剣形の石製模造品である。石材は滑石である。大部分が欠損しているが、上部は台形状と推定でき、鋸と刃は表現されていたと考えられる。4は黒曜石の二次加工のある剥片である。



図版番号	登録番号	遺構	層位	種別	形状	部位	寸法 (cm)			重量 (g)	石材	備考	写真掲載	
							口徑	高径	長さ					
1	C-005	-	IV層	土師器	坏	口縁一帯	16.2	-	5.3	-	口縁：ヨコナゲ 体：ヘラケズリ	口縁：ヨコナゲ 体：ヘラナデ	-	10-13
2	C-005	-	IV層	土師器	壺	体一底	9.1	3.2	4.9	-	体：ハケメ・ヘラナデ 底下縁一底：ヘラケズリ全	ヘラナデ全	外面磨耗	10-13
3	K-019	-	IV層	石製模造品	剣形		3.3	1.3	0.6	3.1	滑石			10-15
4	K-011	-	IV層	石器	剥片		2.7	2.6	2.5	7	黒曜石	複数縁辺に微細割線有り		10-14

第42図 遺構外出土遺物

4. 小結

平成22年度の調査では、弥生時代の遺物と、古墳時代から中世にかけての遺構や遺物を確認した。II校舎の基礎によって、遺構面が削平されていたが、溝跡やピット群が検出された。

V層上面で検出された主な遺構には、SD22・23・25・26がある。当地は河川の氾濫原で、調査地の北側には東西方向に流れる大きな河川が存在が推定されており、SD23は自然流路であったと考えられている。SD22・25・26はそれぞれ重複しており、新旧関係からは数次にわたる溝の埋没と掘削が確認された。

IV層上面で検出された遺構には、柱穴やピット、土坑がある。出土遺物が少なく、これらの遺構が検出された範囲が狭かったため、全容を明らかにできなかった。掘立柱建物跡と考えられる柱穴の組み合わせは2棟、塀もしくは建物の一部と考えられる柱穴列が5列確認された。

弥生時代の遺物は、土器や石器がある。遺構から出土したのもあるが後世の混入品と考えられ、当該期に位置づけられる遺構は確認されなかった。

第7章 総括

1. 遺構・遺物の構成

今回の調査では、縄文時代と弥生時代の遺物と古墳時代や平安時代から中世にかけての遺構と遺物を確認した。遺構には竪穴住居跡や溝跡、土坑やピットなどがある。土坑やピットのなかには明確な時期を確認することができなかったものが多くあるが、時期が判明した遺構には、弥生時代以前と江戸時代以降のものがなかったため、これらも時期が判明した遺構同様に、古墳時代や平安時代から中世に属する可能性が高いと考えられる。遺物は縄文土器、弥生土器、土師器、赤焼土器、須恵器、石器、石製品などが出土した。

(1) 縄文時代

縄文土器の型式や詳細な時期などは特定できなかったが、地文のみの深鉢形土器である。晩期の時期と考えられるが、地文のみの破片であり、弥生時代に属する可能性も考えられる。

(2) 弥生時代

弥生土器片には、沈線文や縄文、列点刺突文などが施されていた。沈線文が施された薄手の破片と、列点刺突文が施されたやや厚手の甕類がある。大部分は中期（辨形圓式）に属すると考えられるが、なかには第36図4のように後期（天王山式）に属するものがある。

(3) 古墳時代

前期に属するものは、竪穴住居跡2軒（SI1、SI3）である。これら住居の残存状態は悪かったが、検出された部分からはいずれも方形と考えられる。確認できた付随する遺構は少なく、SI1やSI3でも炉の痕跡は確認されなかった。なお、SI1は出土遺物から、SI3は遺構の重複関係から時期を推定できた。

中期に属するものは、竪穴住居跡4軒（SI2、SI5～SI7）、溝跡1条（SD10）である。SI2やSI7は南小泉式の土師器・高坏・甕・瓶が出土しており、SI5からは南小泉式の土師器とともに剣形の石製機道具や磨石が出土した。SI5竪穴住居跡は新旧2時期の主柱穴が検出され、西側の柱の建て替えが認められた。

(4) 平安時代～中世

掘立柱建物跡2棟（SB1・2）、柱穴列5基（SA1～5）、竪穴住居跡1軒（SI4）、土坑1基（SK10）を確認した。SI4竪穴住居跡は、住居の北辺部が残存するのみで、北壁中央付近にカマドが構築されている。カマド内堆積土からロクロ調整された土師器高台付坏と甕が出土しており、平安時代に属するものである。掘立柱建物跡や柱穴列の時期については、出土遺物からは確認できなかったため、検出層位からの推定である。また、検出できた範囲が狭いこともあって、その可能性がある柱穴列の提示に留めた。

2. 出土土師器について

竈穴住居跡と溝跡から出土した土師器を集成し、出土遺構と器種ごとに分けて示した(第43図)。器種ごと概観すると次のような特徴があげられる。

高坏の外側はヘラミガキ、内側はヘラナデされており、屈曲した裾部をもつものが多い。坏は、口縁部が内外面ともヨコナデ、体部の外面はヘラケズリが施され、内面はヘラナデとヘラミガキが施されているものが通有である。口縁部は内傾するものと外反するものがあるが、外反するものは種が顕著なるほどには至っていない。付付の鉢についても、坏と同様の調整がなされている。

壺には、口縁部が外反した口唇部が突帯状にめぐり、器壁がやや厚いものや、器壁はやや薄く口縁部のみであるが内面までヘラミガキ調整されたものがある。

甕の口縁部は薄手のものと厚手のものがある。前者は第6図1のような薄手の広口甕で、全体がヘラナデされており、口縁部と体部の間は屈曲し、体部と底は丸みを帯びている。これらの特徴をもつものは壺釜式と考えられる。後者は体部より口縁部のほうが器壁は厚く、形状の分かるものは小型である。

甌は人型のものや小型のものに分けられる。いずれも口縁部はラッパ状に開き、体部との境に屈曲点はない。また、第39図4については、第38図3と調整や形状が似ている。

今回の調査で出土した土師器は、壺釜式から南小泉式の特徴を備えており、古墳時代前期から中期前半に位置づけられる。


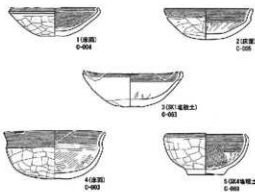
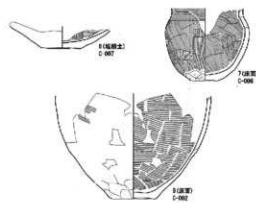
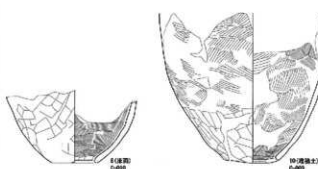



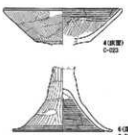
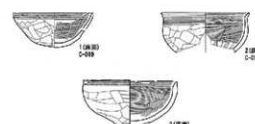


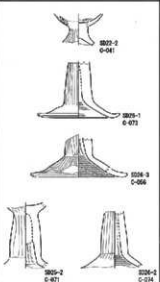
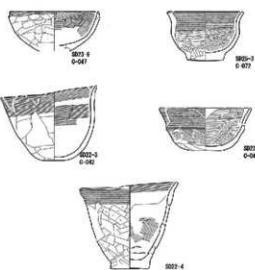
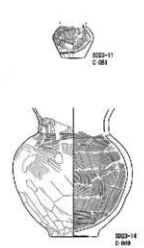
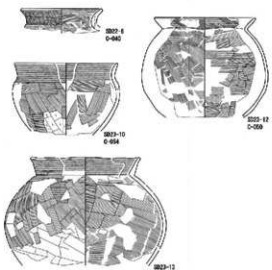
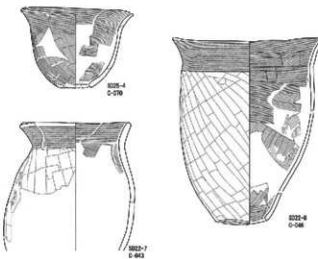
3. まとめ

- (1) 南小泉遺跡は、広瀬川が形成した標高7~14mの自然堤防・後背湿地に位置する。今回の調査では、縄文時代から中世にいたる遺構と遺物が確認された。
- (2) 古墳時代の遺構と遺物を確認した。遠見塚古墳に近接する場所で、同時期の竈穴住居跡からなる集落跡と溝跡が確認された。
- (3) 古代~中世の遺構と遺物が検出された。平安時代の竈穴住居跡と、具体的な時期を明らかにすることはできなかったが、獨立柱建物跡や塀跡の可能性のある柱穴列やピット群が確認された。

(注) 複製変形「字文の名称は「仙台市教育委員会 2010c」『沼向遺跡第4~34次調査』仙台市文化財調査報告書第360集を参考とした。

参考文献

- | | | |
|----------|-------|---------------------------------------|
| 氏家和典 | 1957 | 『東北土師器の形式分類とその編年』『歴史』第14輯 |
| 仙台市教育委員会 | 1996 | 『中在家南遺跡他』仙台市文化財調査報告書第213集 |
| 仙台市教育委員会 | 1998 | 『南小泉遺跡第30・31次発掘調査報告書』仙台市文化財調査報告書第226集 |
| 仙台市教育委員会 | 2004 | 『鴻ノ巣遺跡第7次発掘調査報告書』仙台市文化財調査報告書第280集 |
| 小林達雄 | 2008 | 『総覧 縄文土器』『総覧 縄文土器』刊行委員会 |
| 仙台市教育委員会 | 2008a | 『南小泉遺跡第28次発掘調査報告書』仙台市文化財調査報告書第325集 |
| 仙台市教育委員会 | 2008b | 『南小泉遺跡他 発掘調査報告書』仙台市文化財調査報告書第326集 |
| 仙台市教育委員会 | 2010a | 『西台畑遺跡第1・2次調査』仙台市文化財調査報告書第359集 |
| 仙台市教育委員会 | 2010b | 『南小泉遺跡第61次発掘調査報告書』仙台市文化財調査報告書第362集 |
| 仙台市教育委員会 | 2010c | 『沼向遺跡第4~34次調査』仙台市文化財調査報告書第360集 |
| 宮城県教育委員会 | 2011a | 『宮城の遺跡100』宮城県文化財保護協会 |
| 仙台市教育委員会 | 2011b | 『西台畑遺跡第3次調査』仙台市文化財調査報告書第388集 |
| 仙台市教育委員会 | 2012a | 『谷形遺跡第2・3次調査』仙台市文化財調査報告書第397集 |
| 仙台市教育委員会 | 2012b | 『鴻ノ巣遺跡第9次発掘調査報告書』仙台市文化財調査報告書第400集 |

	高坏	坏・鉢	壺	甕	甗
S11					
S12					
S15					
S17					
SD22 SD23 SD25 SD26					

第43図 出土した古墳時代の土師器

写 真 图 版



B～D地区 完掘全景（東から）



A地区 完掘全景（北から）



S11遺物出土状況（西から）



S12遺物出土状況（南から）

図版1 平成21年度検出遺構（1）



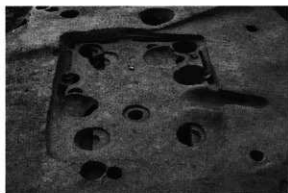
SI3全景 (西から)



SI4全景 (南から)



SI4カマド近景 (西から)



SI5全景 (北から)



SI5カマド遺物出土状況 (東から)



SI6完掘状況 (南から)



SI7完掘状況 (南から)



SK10全景 (西から)

図版2 平成21年度検出遺構 (2)



SD1~9全景 (西から)



SD10完掘状況 (南から)



SD11完掘状況 (南から)



SX2検出状況 (北から)



E地区 Ne層上面全景 (北から)

図版3 平成21年度検出遺構 (3)・平成22年度検出遺構Ne層上面 (1)



SB2完備状況 (西から)



SK34土層断面 (南から)



柱穴列全景 (北から)



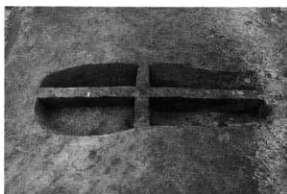
SK35完備状況 (南から)



SK40土層断面 (南から)



SK41土層断面 (南から)



SK42土層断面 (西から)

図版4 平成22年度検出遺構Ⅳ層上面 (2)



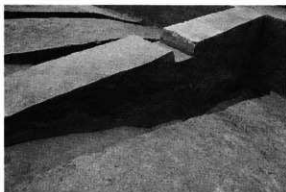
E地区 V層上面全景（北から）



SD22・25・26全景（東から）



SD22・25・26土層断面（東から）

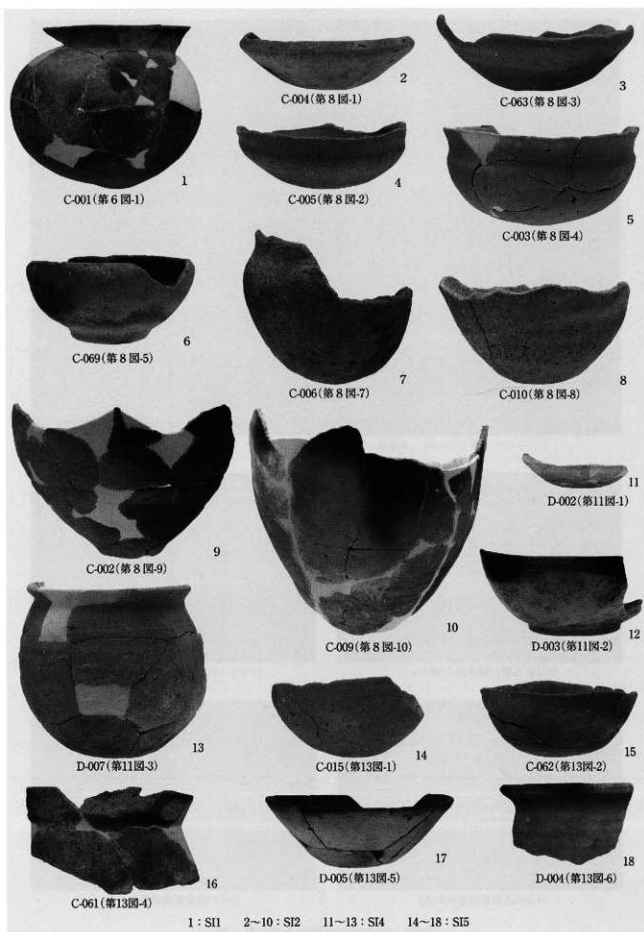


SD23土層断面（東から）

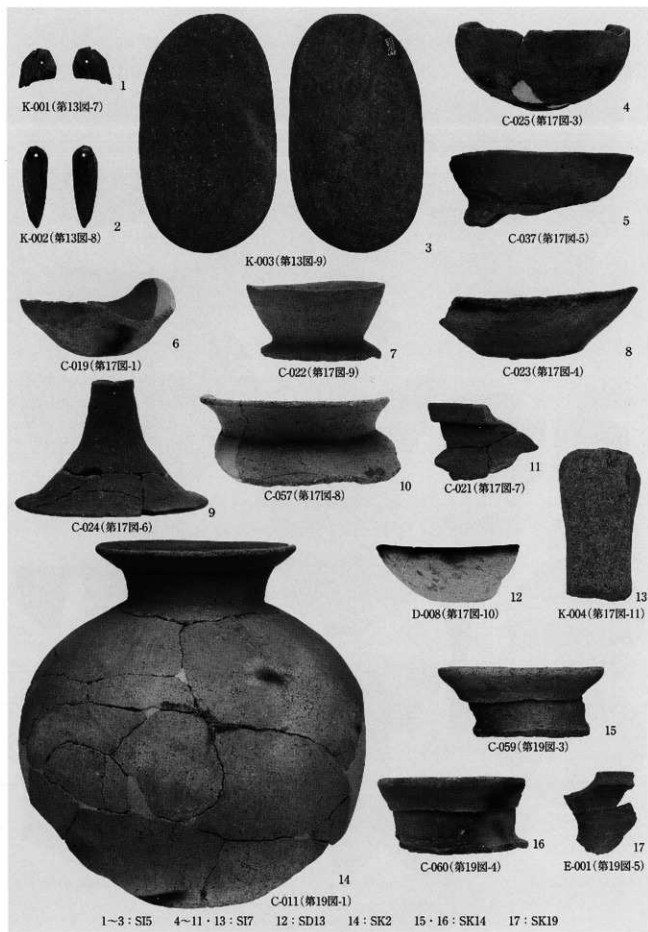


SK46土層断面（西から）

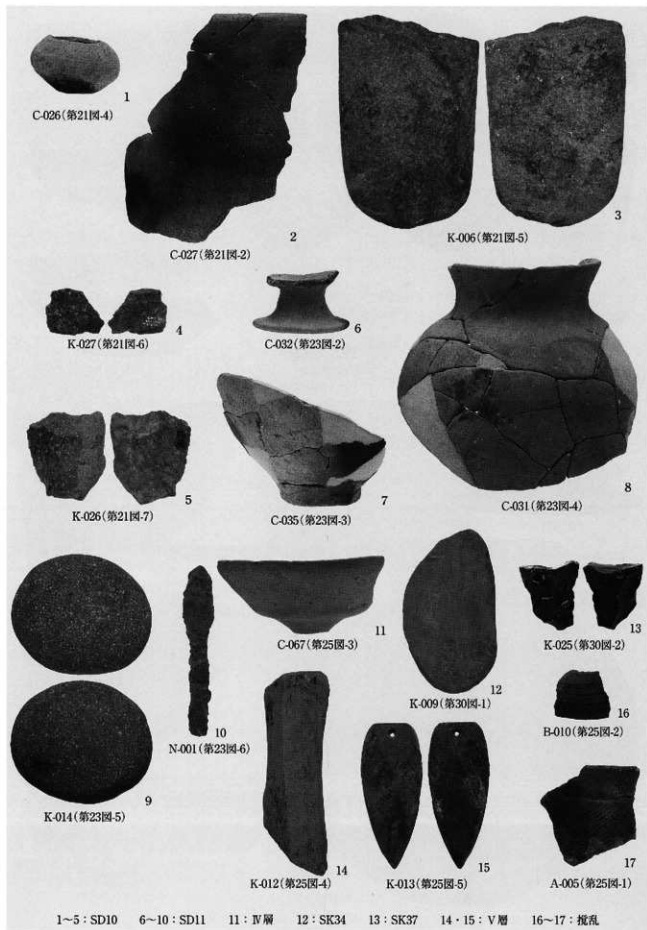
図版5 平成22年度検出遺構V層上面



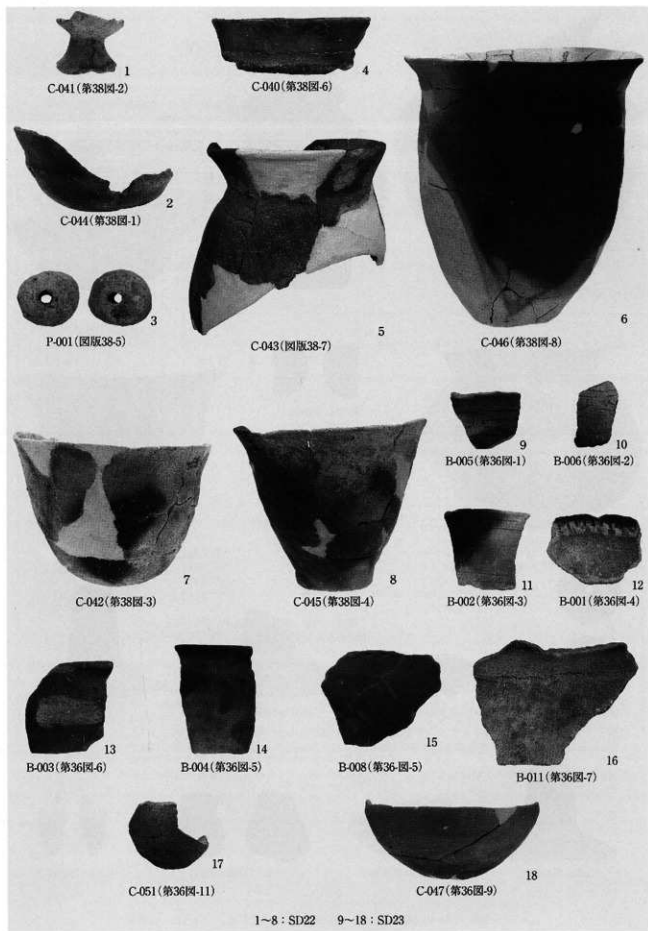
圖版6 竪穴住居跡出土遺物



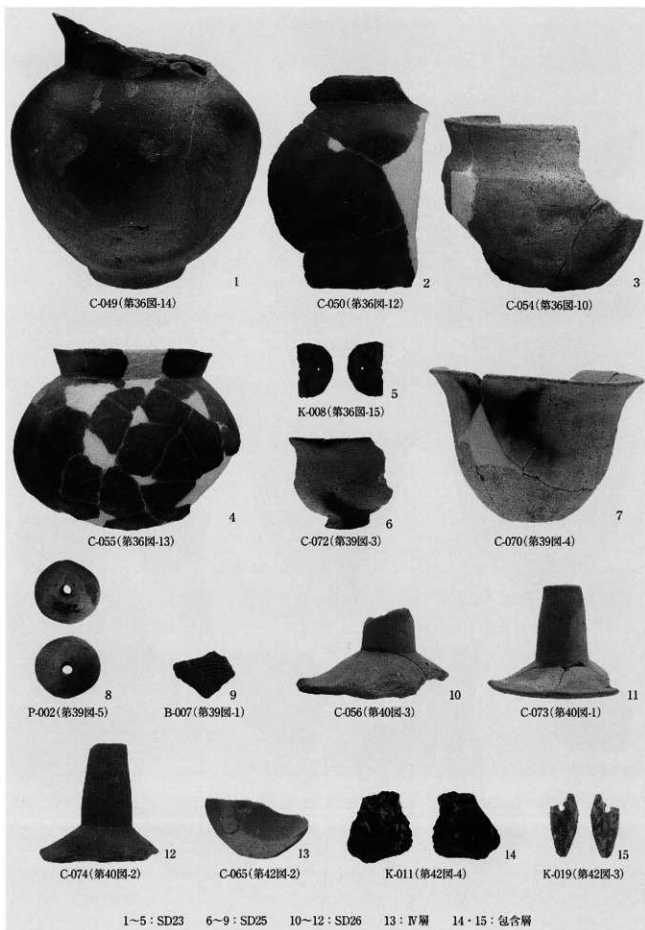
図版7 竪穴住居跡・土坑・溝跡出土遺物



図版8 溝跡・土坑・その他出土遺物



图版9 满跡出土遺物



図版10 溝跡・その他出土遺物

仙台市文化財調査報告書第408集

南小泉遺跡

第62次発掘調査報告書

2012年9月

発行 仙台市教育委員会

宮城県仙台市青葉区一番町4-1-25
文化財課022 (214) 8899

印刷 株式会社東北プリント

〒980-0822 宮城県仙台市青葉区立町24-24
022 (263) 1166

